

- 被害防止計画の作成数、特徴等
被害防止計画は県内43市町村のうち、42市町村が作成済みである。
対象鳥獣は、それぞれの市町村の状況に応じて設定されており、獣類ではイノシシ・シカ・サル・タヌキ・アナグマ等、鳥類では、カラス・ヒヨドリ等が多い。
- 事業効果の発現状況
令和5年度の農作物被害は、推進事業、整備事業、緊急捕獲活動支援事業の活用により、イノシシによる被害が前年度より約12.8百万円増加したものの、シカによる被害が約14.5百万円、ヒヨドリによる被害が約32.3百万円減少した。
推進事業では、被害防止対策研修会の開催やICT機器、捕獲機器の整備、狩猟免許取得者の確保、緊急捕獲活動支援事業では、有害鳥獣の捕獲活動経費の支援等により「(鳥獣を)寄せ付けない」「個体数を減らす」対策が進められている。
また、整備事業では、電気柵等の整備により「侵入を防止する」対策が進められている。
- 被害防止計画の目標達成状況
「寄せ付けない」「侵入を防止する」「個体数を減らす」という3つの取組を柱に被害防止対策を進めた結果、県全体の農作物等への被害は減少したが、侵入防止柵等の設置ができていない地域での被害の増加により目標の達成に至らない市町村もある。
- 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)			
鹿児島市鳥獣被害防止対策協議会	鹿児島市全域	R3		有害捕獲 被害防除	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 14人 センサーカメラ 5基 対策研修DVD 1セット	鹿児島鳥獣被害防止対策協議会		100%	市内全域で、イノシシ、アナグマ等による水稲やサツマイモ等の野菜類の被害やカラス、ヒヨドリ等による桜島小みかん等の果実類に被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行った。 また推進事業を活用し、大型型用箱罠や自動捕獲システム、捕獲通知機器の導入などにより、捕獲活動の強化を図った。これらの取組により、鹿児島市におけるイノシシの有害捕獲捕獲頭数は34%増加、シカの有害捕獲頭数は20%増加している。	イノシシ 6,367 アナグマ 1,569 シカ 539 タヌキ 570 カラス 1,378 ヒヨドリ 1,022 合計 11,444	イノシシ 8,440 アナグマ 2,256 シカ 1,212 タヌキ 502 カラス 2,199 ヒヨドリ 1,831 合計 16,448	イノシシ 24% アナグマ Δ2% シカ Δ191% タヌキ 128% カラス Δ39% ヒヨドリ Δ85% 合計 Δ2%	イノシシ 5.2 アナグマ 0.9 シカ 0.5 タヌキ 0.4 カラス 1.0 ヒヨドリ 0.6 合計 8.7	イノシシ 6.1 アナグマ 1.3 シカ 1.1 タヌキ 0.3 カラス 1.6 ヒヨドリ 1.4 合計 11.8	イノシシ 56% アナグマ 9% シカ Δ168% タヌキ 183% カラス Δ20% ヒヨドリ Δ167% 合計 16%	被害が一番大きかったイノシシについては、緊急捕獲活動支援事業の活用や推進事業による大型型用箱罠の導入などにより捕獲活動を強化したことで、捕獲頭数も増加し被害額も基準年より減少していることから一定の効果があったものと考えている。 しかし、イノシシをはじめ野生鳥獣が市街地にも出没するケースが増加していることから生態数を抑えることができていないと推察され、引き続き有害捕獲を実施していくが、捕獲を担う猟友会も高齢化していることから、本事業を活用しながら引き続き取り組むことにより、被害金額・被害面積の減少を図る必要があると考えている。	鹿児島県被害対策アドバイザー（R5年度まで登録） 川口 克司氏	緊急捕獲活動支援事業の活用により、イノシシやシカの捕獲頭数は増加している一方で、被害金額全体は横ばいとなっている。目標を達成するためには、地域ぐるみで鳥獣の捕獲、侵入防止対策、生態環境管理の徹底を推進するとともに、捕獲従事者の高齢化に対応するため、ICT等の新技術を活用した効果的な被害対策の推進が必要である。
				緊急捕獲	イノシシ 1,250頭 イノシシ(幼) 36頭 シカ 266頭 タヌキ 108頭 アナグマ 460頭 カラス 49羽 ヒヨドリ 100羽													
		R4	イノシシ シカ アナグマ タヌキ ヒヨドリ カラス	有害捕獲 ICT等新技術実証	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 5人 箱わな(犬) 10基 センサー式自動捕獲システム 10基 センサーカメラ 3基	鹿児島鳥獣被害防止対策協議会		100%										
				緊急捕獲	イノシシ 1,299頭 イノシシ(幼) 64頭 シカ 264頭 シカ(幼) 1頭 タヌキ 114頭 アナグマ 528頭 カラス 178羽 ヒヨドリ 100羽													
		R5		有害捕獲 ICT等新技術実証	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 4人 箱わな(犬) 11基 センサー式自動捕獲システム 11基 センサーカメラ 5基 カメラスタンド 5基 被害対策研修会 2回 捕獲通知機器 1式	鹿児島鳥獣被害防止対策協議会		100%										
				緊急捕獲	イノシシ 1,634頭 イノシシ(幼) 86頭 シカ 320頭 タヌキ 100頭 アナグマ 425頭 カラス 118羽 ヒヨドリ 210羽													
日置市有害鳥獣緊急捕獲対策協議会	日置市全域	R3		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 9人	日置市有害鳥獣緊急捕獲対策協議会		100%	各猟友会の活動により、有害鳥獣の捕獲頭数は隔年での変動はあるものの、事業による捕獲・駆除の促進効果はあったものとする。 (ジビエの利用拡大に向けた地域の取組) 稼働年度と比較して、R5年度は販売数量、販売金額ともに増加傾向である。 加工処理施設における処理頭数に関しては、イノシシ218%、シカ180%、アナグマ102%に増加(R5年度：イノシシ418頭、シカ396頭、アナグマ58頭、R4年度：イノシシ192頭、シカ220頭、アナグマ57頭) また、加工処理施設人材育成や販路拡大のための研修会や講習会参加を行った。	イノシシ 377 シカ 20 アナグマ 0.7 スズメ 23 合計 421	イノシシ 1,018 シカ 0 アナグマ 0 スズメ 0 合計 1,018	イノシシ Δ298% シカ 322% アナグマ 333% スズメ 330% 合計 Δ229%	イノシシ 0.4 シカ 0.0 アナグマ 0.0 スズメ 0.0 合計 0.9	イノシシ Δ238% シカ 300% アナグマ - スズメ 300% 合計 Δ178%	・作物ごとで被害金額・被害面積ともに隔年で異なっており、また旧町ごとでも被害が異なっている。 ・市全体では、イノシシ、アナグマの被害が多く発生している。 ・近年、家庭菜園や田畑の畔・土手掘り起こし被害が発生している。 ・イノシシ以外の鳥獣被害に関しては、減少しているが、把握できていない被害等があると予測される。	鹿児島県被害対策アドバイザー（R5年度まで登録） 川口 克司氏	緊急捕獲活動支援事業の活用により、イノシシやアナグマの捕獲頭数は増加している一方、被害金額は少ないものの、増減を繰り返しており、減少していない。目標を達成するためには、地域ぐるみでイノシシを中心とした捕獲、侵入防止対策、生態環境管理の徹底を推進する必要がある。	
				有害捕獲 ICT等新技術実証	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 5人 有害鳥獣捕獲用わな様購入 417枚 ICT実証実験													日置市有害鳥獣緊急捕獲対策協議会
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 569m	竹之山地区	100%													
		R4	イノシシ シカ アナグマ タヌキ ノウサギ ヒヨドリ カラス スズメ ドバト	有害捕獲	イノシシ 660頭 イノシシ(幼) 86頭 シカ 316頭 シカ(幼) 2頭 タヌキ 23頭 アナグマ 485頭 カラス 44羽	日置市有害鳥獣緊急捕獲対策協議会		100%										
				緊急捕獲	イノシシ 736頭 イノシシ(幼) 74頭 シカ(成) 297頭 シカ(幼) 3頭 アナグマ 540頭 タヌキ 58頭 カラス 53羽													R4
		R5		有害捕獲 ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 6人 大型箱わな購入 3基 電動印字プリンター フードプロセッサー 研修会(旅費、宿泊費、会場借料、講師謝金、新商品開発費)	日置市有害鳥獣緊急捕獲対策協議会		100%										
緊急捕獲	イノシシ 736頭 イノシシ(幼) 74頭 シカ(成) 297頭 シカ(幼) 3頭 アナグマ 540頭 タヌキ 58頭 カラス 53羽	R5	100%															

(1)定量的な事業効果(ジビエ販売量の増減) 単位:kg,円,%

	R4年度販売 ①	R5年度販売 ②	増減率・金額 ②-①	増減率 ②/①
ジビエ販売量	1,657	7,491	5,834	462
ジビエ販売金額	4,240,000	18,100,000	13,860,000	427

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の詳細	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)			
いちき串木野市有害鳥獣捕獲対策協議会	いちき串木野市全域	R3	有害捕獲推進体制の整備	電気止め刺し 7基 電気止め刺し先端部交換品 21本 事業事務用消耗品	いちき串木野市有害鳥獣捕獲対策協議会	-	-	100%	狩猟免許講習会受講料の助成により、捕獲従事者3人の増員を確保することができたことにより、効率的に実施できることによりイノシシ捕獲数が増加した。	イノシシ 1,463 シカ 328 タヌキ 165 アナグマ 200 カラス 1,019 スズメ 760 ヒヨドリ 1,041 サル 201 合計 5,176	イノシシ 1,746 シカ 382 タヌキ 204 アナグマ 246 カラス 1,257 スズメ 909 ヒヨドリ 1,060 サル 258 合計 6,062	イノシシ 55% シカ 61% タヌキ 44% アナグマ 47% カラス 46% スズメ 54% ヒヨドリ 96% サル 34% 合計 60%	イノシシ 1.4 シカ 0.3 タヌキ 0.1 アナグマ 0.1 カラス 0.5 スズメ 0.8 ヒヨドリ 0.3 サル 0.1 合計 3.5	イノシシ 1.4 シカ 0.3 タヌキ 0.1 アナグマ 0.1 カラス 0.5 スズメ 0.8 ヒヨドリ 0.3 サル 0.1 合計 3.7	イノシシ 86% シカ 83% タヌキ 100% アナグマ 100% カラス 100% スズメ 84% ヒヨドリ 58% サル 100% 合計 85%	本事業を活用し、年次的にわな通報システムや電気止め刺し等を購入したことにより有害鳥獣の捕獲実績が上がった。 今後も捕獲従事者の確保や捕獲体制の整備を固めつつ、市職員のわな免許取得を行い捕獲力向上に取り組みること、より効率的な被害防止対策を目指す。	本事業を活用して、新規捕獲従事者の確保や捕獲機材の導入に対する支援を行うことにより、有害鳥獣捕獲頭数はイノシシ・シカを中心に約30%増(R5/R3比)しており一定の効果が認められる一方で、被害金額・被害面積については基準年(R1)と比べると増えているものの、目標には達していない。 制の整備を固めつつ、市職員のわな免許取得を行い捕獲力向上に取り組みること、より効率的な被害防止対策を目指す。	緊急捕獲活動支援事業の活用により、イノシシやシカの捕獲頭数は増加している一方で、被害金額が増加している。 被害額の目標を達成するためには、地域ぐるみで鳥獣の捕獲、侵入防止対策、生息環境管理の徹底を推進するとともに、捕獲従事者の確保対策を取り組む必要がある。
				緊急捕獲														
			有害捕獲推進体制の整備	わな通報システム 1機	いちき串木野市有害鳥獣捕獲対策協議会	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 976頭 イノシシ(幼) 219頭 シカ 542頭 シカ(幼) 1頭 サル 2頭 タヌキ 73頭 アナグマ 392頭 カラス 23羽	100%														
		有害捕獲推進体制の整備	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 3人 くくりわな 12基 赤外線サーマルカメラ 1基 事業事務用消耗品	いちき串木野市有害鳥獣捕獲対策協議会	100%													
		緊急捕獲	イノシシ 1,049頭 イノシシ(幼) 220頭 シカ 504頭 シカ(幼) 3頭 サル 3頭 タヌキ 65頭 アナグマ 319頭 カラス 13羽	100%														
南さつま市鳥獣被害防止対策協議会	南さつま市全域	R3	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 9人 箱わな(大) 12基 箱わな(中) 10基 箱わな(小) 10基 くくりわな 15基 計量ラベルプリンター 一式	南さつま市鳥獣被害防止対策協議会 めんどり	100%	(鳥獣被害防止施設) 集落と山との境界で、イノシシ、アナグマ、ヒヨドリなどによる水稲や果樹、野菜、いも類などの被害が多発しているから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うとともに、中山間地の水田に侵入防止柵を設置、進入路となる河川や道路に箱ワナやくくりわなを設置。地域農家による追い払い等を行った。これらの取組により、本市におけるイノシシの有害捕獲頭数は52%増加、アナグマの有害捕獲頭数は24%増加した。(施設整備前(R3)の年間有害捕獲頭数はイノシシ1052頭、アナグマ432頭、整備後(R5)の年間有害捕獲頭数はイノシシ1602頭、アナグマ535頭。) (ジビエの利用拡大に向けた地域の取組) 1 ジビエ販売量あるいは販売金額のいずれか若しくはその両方が前年度の実績を下回ったの要因と対応 →令和5年度はジビエ処理加工施設(めんどり)のイノシシ処理頭数は令和3年度から30.3%減った(R3/776頭、R5/776頭)ため、販売量と販売金額が前年を下回った。ジビエ肉の需要に応じてイノシシの肉質のいい確にこだわって処理している。	イノシシ 3,560 アナグマ 594 ヒヨドリ 1,090 合計 5,244	イノシシ 5,714 アナグマ 413 ヒヨドリ 238 合計 6,365	イノシシ Δ41% アナグマ 171% ヒヨドリ 282% 合計 50%	イノシシ 2.6 アナグマ 0.5 ヒヨドリ 0.5 合計 3.6	イノシシ 5.2 アナグマ 0.2 ヒヨドリ 0.1 合計 5.6	イノシシ Δ125% アナグマ 218% ヒヨドリ 268% 合計 Δ23%	推進事業での新規狩猟免許講習会助成や捕獲機材の貸付で、緊急捕獲活動支援事業を担う猟友会会員は増加傾向で、有害鳥獣の捕獲頭数も増加している。 整備事業や市の単独予算にて整備した侵入防止柵によって、被害防止効果が得られていた。一方、柵の管理は管理主体となる組合によって異なっていた。そのため、今後も柵の効果を持続するために定期的な管理・運用が求められる。 被害の大部分がイノシシである。被害発生地で加害個体を捕獲する効率的な捕獲が必要である。被害発生箇所周辺に柵を設置するよう指示を出すことが重要である。 市では個別に鳥獣被害に対応する人員を雇用している。活動の趣旨としては鳥獣被害対策実施隊と類似している。そのため、実施隊の民間隊員の活用も検討されたい。				
			緊急捕獲	イノシシ 978頭 イノシシ(幼) 74頭 タヌキ 50頭 アナグマ 43頭 カラス 62羽	100%													
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 4人 箱わな(大) 10基 箱わな(中) 10基 箱わな(小) 12基 くくりわな 16基 発信機・受信機用(箱わな用) 10台 電気止刺機 6基	南さつま市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 L=4,750m	大浦町大木場ほ場整備地区水利組合	100%													
		緊急捕獲	イノシシ 1,256頭 イノシシ(幼) 154頭 タヌキ 49頭 アナグマ 587頭	100%														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 12人 箱わな(大) 10基 箱わな(中) 10基 箱わな(小) 19基 電気止刺機 1基 鳥害対策機器 1基	南さつま市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
鳥獣被害防止施設 処理加工施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 4,000m 金属探知機 1基	加世田相星地区基盤整備組合 めんどり	100%															
緊急捕獲	イノシシ 1,385頭 イノシシ(幼) 217頭 タヌキ 47頭 アナグマ 535頭	100%																

(1) 定量的な事業効果 (ジビエ販売量の増減) 単位: kg, 円, %

	R3年度販売		R5年度販売		増減額・金額	増減率
	①	②	③	④		
ジビエ販売量	777kg	958kg	Δ181kg	23%		
ジビエ販売金額	2,788,890円	2,340,360円	Δ448,530円	16%		

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)			
南九州市鳥獣被害防止対策協議会	南九州市全域	R3	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 5人 箱わな(小) 10基 大型箱わな材料費1基分 ほか	南九州市鳥獣被害防止対策協議会	R3	100%	イノシシを中心として被害は野菜や水稲などにわり発生していることから、推進事業、整備事業及び緊急捕獲活動支援事業を活用し、猟友会委員利用の箱わな等捕獲機材を整備、園場一帯を囲うように侵入防止柵を設置し、猟友会で有害捕獲を行うなど実施した。これらの取組により、本市におけるイノシシの有害捕獲頭数は71%増加、アナグマの有害捕獲頭数は18%増加した。(事業前の令和元年度で年間の有害捕獲頭数はイノシシが300頭、アナグマが395頭。事業後の令和5年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシが514頭、アナグマが468頭。)	イノシシ 1,075 アナグマ 138 ノウサギ 11 カラス 21 ヒヨドリ 37 カモ 2 合計 1,284	イノシシ 1,724 アナグマ 4 ノウサギ - カラス - ヒヨドリ - カモ - 合計 1,728	イノシシ Δ41% アナグマ 327% ノウサギ 320% カラス 333% ヒヨドリ 331% カモ 300% 合計 19%	イノシシ 1.0 アナグマ 0.2 ノウサギ 0.0 カラス 0.0 ヒヨドリ 0.0 カモ 0.0 合計 1.3	イノシシ 1.5 アナグマ 0.0 ノウサギ - カラス - ヒヨドリ - カモ - 合計 1.5	イノシシ Δ14% アナグマ 314% ノウサギ 500% カラス - ヒヨドリ 300% カモ - 合計 47%	電気柵を設置した園場においては、イノシシによる農作物等への被害は発生していない。管理主体においては「電気柵維持管理スケジュール」を作成し作業を徹底するなど、効果的な運用のための取組みを行っている。 市内全体としては令和元年以降有害鳥獣による被害は増加したが、各種取組みにより令和5年度は減少に転じた。 今後は他地区においても侵入防止柵の設置・有害鳥獣の捕獲等の対策を継続的に進めていく必要がある。	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 陽助氏	被害面積・被害金額とも目標未達。ほとんどイノシシの被害である。 電気柵を設置した地域では被害が出ていないことから、今後も効果的な電気柵の設置をするなど、第三者の意見や他地域でイノシシ防除に成果が上がっている事例等を収集・分析するなどして被害軽減対策に取り組んで欲しい。	
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 4人 電気止柵機 18機 大型箱わな材料費1基分		南九州市鳥獣被害防止対策協議会		100%									
				鳥獣被害防止施設	電気柵(3段)1地区 2,070m		永里中福良電気柵組合		100%									
			緊急捕獲	イノシシ 386頭 イノシシ(幼) 55頭 シカ 1頭 タヌキ 99頭 アナグマ 486頭 カラス 9羽	-	100%												
			有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 5人 箱わな用標識150枚 小型箱わな材料費1基分	南九州市鳥獣被害防止対策協議会	100%												
			鳥獣被害防止施設	電気柵(2段)1地区 2,260m	宝正寺水利組合	100%												
		R5	有害捕獲	イノシシ 440頭 イノシシ(幼) 74頭 シカ 5頭 タヌキ 96頭 アナグマ 468頭 カラス 7羽	-	100%												
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 有害鳥獣捕獲器(大) 1基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 59基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%											
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 1,750m	内田地区鳥獣被害防止対策組合 東牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%											
			緊急捕獲	イノシシ 371頭 イノシシ(幼) 107頭 シカ 1,132頭 シカ(幼) 8頭 アナグマ 227頭 タヌキ 26頭 カラス 35羽	-	100%												
			有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 有害鳥獣捕獲器(大) 2基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 108基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%												
			鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 800m ワイヤーメッシュ柵 1地区 340m	・金網柵 桑原城上地区鳥獣被害防止対策組合 ・ワイヤーメッシュ柵 弓木野地区鳥獣被害防止対策組合	100%												
R4	有害捕獲	イノシシ 347頭 イノシシ(幼) 124頭 シカ 902頭 (捕獲頭数に増加に応じた加算 うち201頭) シカ(幼) 17頭 アナグマ 245頭 タヌキ 27頭 カラス 35羽	-	100%														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 有害鳥獣捕獲器(大) 4基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 94基 園産ジビエ衛生管理研修助成 ジビエ料理教室開催費助成	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
		鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 855m ワイヤーメッシュ柵 5地区 5,250m	・金網柵 桑原城上地区鳥獣被害防止対策組合 ・ワイヤーメッシュ柵 内田地区鳥獣被害防止対策第一組合 内田地区鳥獣被害防止対策第二組合 浦地区鳥獣被害防止対策組合 桑原城下地区鳥獣被害防止対策組合 牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%													
	緊急捕獲	イノシシ 491頭 イノシシ(幼) 199頭 シカ 1,209頭 シカ(幼) 35頭 アナグマ 326頭 タヌキ 57頭 カラス 15羽	-	100%														
	有害捕獲	有害捕獲 被害防除	-	-	-													
	鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 855m ワイヤーメッシュ柵 5地区 5,250m	・金網柵 桑原城上地区鳥獣被害防止対策組合 ・ワイヤーメッシュ柵 内田地区鳥獣被害防止対策第一組合 内田地区鳥獣被害防止対策第二組合 浦地区鳥獣被害防止対策組合 桑原城下地区鳥獣被害防止対策組合 牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%														
R5	有害捕獲	イノシシ 371頭 イノシシ(幼) 107頭 シカ 1,132頭 シカ(幼) 8頭 アナグマ 227頭 タヌキ 26頭 カラス 35羽	-	100%														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 有害鳥獣捕獲器(大) 2基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 108基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 1,750m	内田地区鳥獣被害防止対策組合 東牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%													
	緊急捕獲	イノシシ 371頭 イノシシ(幼) 107頭 シカ 1,132頭 シカ(幼) 8頭 アナグマ 227頭 タヌキ 26頭 カラス 35羽	-	100%														
	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 有害鳥獣捕獲器(大) 1基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 59基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%														
	鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 1,750m	内田地区鳥獣被害防止対策組合 東牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%														
阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	阿久根市全域	R3	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 有害鳥獣捕獲器(大) 1基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 59基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	R3	100%	集落及び山林との境界において、イノシシによる水稲、苜蓿、タケノコへの被害やシカによる果樹類への被害などを中心に被害が多発していることから、園の緊急捕獲活動支援事業を活用し、山間部において捕獲隊による有害鳥獣の駆除を行うとともに、田畑を一体的に囲うように侵入防止柵を設置し、進入路となりえる河川や道路に箱わなの設置を行った。 これらの取組により、本市における有害捕獲頭数は、令和元年度と比較し、イノシシが59%増、シカが53%増となった。 (ジビエの利用拡大に向けた地域の取組) 令和4年度・5年度とも、いから阿久根支の持込解体件数は100件ほどであり、年間の捕獲頭数に対して、5%ほどしかない。令和4年9月から再稼働しているが、以前ほどの解体件数はなく、引き続き捕獲従事者に対し搬入の協力を依頼し、良好な連携体制を構築する必要がある。 また、実需者や消費者のジビエの認知度も低いことから、食材としての活用や食べる機会を創出し、園産ジビエ認証取得施設として、安全で良質なジビエの安定供給を図り、販路開拓に努める。	イノシシ 3,820 シカ 5,947 アナグマ 505 カラス 107 ヒヨドリ 1,325 スズメ 91 合計 11,806	イノシシ 4,082 シカ 7,466 アナグマ 582 カラス 137 ヒヨドリ 1,852 スズメ 163 合計 14,282	イノシシ 85% シカ 40% アナグマ 65% カラス 36% ヒヨドリ 7% スズメ Δ80% 合計 51%	イノシシ 6.1 シカ 7.8 アナグマ 0.4 カラス 0.1 ヒヨドリ 0.2 スズメ 0.1 合計 14.7	イノシシ 6.9 シカ 2.3 アナグマ 0.3 カラス 0.1 ヒヨドリ 0.4 スズメ 0.1 合計 10.2	イノシシ 69% シカ 263% アナグマ 124% カラス 33% ヒヨドリ Δ30% スズメ Δ25% 合計 171%	令和5年度が事業評価年度であり、被害防止計画で定める目標値では、被害金額の軽減に達することができなかった。 整備事業にて導入した侵入防止柵は、組合によって適正に管理が行われており、被害軽減効果が得られていた。 ジビエ加工施設は、運用が再開されていたが、以前と比べると搬入数が少ない。捕獲従事者の理解のもと、搬入数を増加させることが課題である。また、精肉だけでなく、ペットフードへの取組みを行うことで残さの軽減にも繋がると考えられる。 鳥獣では、イノシシやシカに比べると金額は少ないながらもヒヨドリの被害が報告されている。小規模農地での侵入防止や捕獲技術の定着が望ましい。	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 陽助氏	取組により、有害捕獲頭数は、令和元年度と比較し、イノシシが59%増、シカが53%増となっているが、被害金額の軽減に達することができていない。 イノシシ、シカを中心とした林産物の被害額が大きくなり、捕獲頭数が年々増加傾向にあることから、さらなる対策が必要である。 ジビエ加工施設は、運用が再開されていたが、以前と比べると搬入数が少ない。搬入数を増加させることが課題である。	
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 有害鳥獣捕獲器(大) 2基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 108基		阿久根市鳥獣被害防止対策協議会		100%									
				鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 800m ワイヤーメッシュ柵 1地区 340m		・金網柵 桑原城上地区鳥獣被害防止対策組合 ・ワイヤーメッシュ柵 弓木野地区鳥獣被害防止対策組合		100%									
			緊急捕獲	イノシシ 347頭 イノシシ(幼) 124頭 シカ 902頭 (捕獲頭数に増加に応じた加算 うち201頭) シカ(幼) 17頭 アナグマ 245頭 タヌキ 27頭 カラス 35羽	-	100%												
			有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 有害鳥獣捕獲器(大) 4基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 94基 園産ジビエ衛生管理研修助成 ジビエ料理教室開催費助成	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%												
			鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 855m ワイヤーメッシュ柵 5地区 5,250m	・金網柵 桑原城上地区鳥獣被害防止対策組合 ・ワイヤーメッシュ柵 内田地区鳥獣被害防止対策第一組合 内田地区鳥獣被害防止対策第二組合 浦地区鳥獣被害防止対策組合 桑原城下地区鳥獣被害防止対策組合 牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%												
R4	有害捕獲	イノシシ 371頭 イノシシ(幼) 107頭 シカ 1,132頭 シカ(幼) 8頭 アナグマ 227頭 タヌキ 26頭 カラス 35羽	-	100%														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 有害鳥獣捕獲器(大) 2基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 108基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 1,750m	内田地区鳥獣被害防止対策組合 東牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%													
R5	有害捕獲	イノシシ 440頭 イノシシ(幼) 74頭 シカ 5頭 タヌキ 96頭 アナグマ 468頭 カラス 7羽	-	100%														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 有害鳥獣捕獲器(大) 1基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 59基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 1,750m	内田地区鳥獣被害防止対策組合 東牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%													
R3	有害捕獲	イノシシ 371頭 イノシシ(幼) 107頭 シカ 1,132頭 シカ(幼) 8頭 アナグマ 227頭 タヌキ 26頭 カラス 35羽	-	100%														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 有害鳥獣捕獲器(大) 2基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 108基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 1,750m	内田地区鳥獣被害防止対策組合 東牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%													
R4	有害捕獲	イノシシ 347頭 イノシシ(幼) 124頭 シカ 902頭 (捕獲頭数に増加に応じた加算 うち201頭) シカ(幼) 17頭 アナグマ 245頭 タヌキ 27頭 カラス 35羽	-	100%														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 有害鳥獣捕獲器(大) 4基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 94基 園産ジビエ衛生管理研修助成 ジビエ料理教室開催費助成	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
		鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 855m ワイヤーメッシュ柵 5地区 5,250m	・金網柵 桑原城上地区鳥獣被害防止対策組合 ・ワイヤーメッシュ柵 内田地区鳥獣被害防止対策第一組合 内田地区鳥獣被害防止対策第二組合 浦地区鳥獣被害防止対策組合 桑原城下地区鳥獣被害防止対策組合 牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%													
R5	有害捕獲	イノシシ 440頭 イノシシ(幼) 74頭 シカ 5頭 タヌキ 96頭 アナグマ 468頭 カラス 7羽	-	100%														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 有害鳥獣捕獲器(大) 1基 有害鳥獣捕獲器(小) 2基 くくりわな 59基	阿久根市鳥獣被害防止対策協議会	100%													
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 1,750m	内田地区鳥獣被害防止対策組合 東牧内地区鳥獣被害防止対策組合	100%													

(1) 定量的な事業効果 (ジビエ販売量の増減) 単位: kg,円, %

	R4年度販売	R5年度販売	増減量・金額	増減率
	①	②	②-①	②/①
ジビエ販売量	41.8	769	727.2kg	1840%
ジビエ販売額	120,038	1,750,000	1,629,961円	1458%

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価														
										被害金額			被害面積																			
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)																	
出水市有害鳥獣捕獲対策協議会 (出水市)	出水市全域	R3		有害捕獲被害防止	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 11人 商談会等への参加 ICTシステム導入	出水市有害鳥獣捕獲対策協議会		100%																								
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 10地区 18,288m	法師川内地区 中原・平田地区 折尾野地区 中川地区 宇都辺地区 轟原地区 舟木野下田地区 平渡瀬地区 正現地区 鍋野・水之頭地区 鳥獣被害防止対策組合	R3																									
				緊急捕獲	イノシシ 393頭 (捕獲頭数に増加に応じた加算 うち1頭) イノシシ(ジビエ) 148頭 イノシシ(幼) 37頭 シカ 725頭 (捕獲頭数に増加に応じた加算 うち200頭) シカ(ジビエ) 536頭 ジビエ(幼) 8頭 アナグマ 286頭 タヌキ 30頭 カラス 575羽			100%																								
		有害捕獲被害防止	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 6人 商談会等への参加費 ジビエ処理加工技術研修費	出水市有害鳥獣捕獲対策協議会		100%																										
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 11地区 23,870m (うち再編180m) 電気柵(2段) 1地区 2,476m 電気柵(4段) 1地区 9,928m	針原地区 針原中央地区 香月地区 上場地区 武本地区 溝上地区 下平野上地区 下平野下地区 武本山下地区 上特幸第2地区 マカセ落・岩下地区 関外孫山南地区 奥原地区 鳥獣被害防止対策組合	R4	100%																										
		緊急捕獲	イノシシ 375頭 イノシシ(ジビエ) 139頭 イノシシ(幼) 26頭 シカ 866頭 シカ(ジビエ) 751頭 ジビエ(幼) 4頭 アナグマ 299頭 タヌキ 31頭 カラス 242羽			100%																										
	R5		有害捕獲被害防止	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 7人 箱わな(大) 17基 箱わな(小) 22基 実施隊狩猟ベスト購入費 10着 商談会等への参加費 ジビエ処理加工技術研修費	出水市有害鳥獣捕獲対策協議会		100%																									
			鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 6地区 17,556m (うち再編924m) 電気柵(2段) 1地区 1,076m 電気柵(4段) 2地区 5,240m 金属探知機 1基	上場地区 市立地区 長沼段地区 武本向石原地区 野平地区 高牟礼地区 奥宮地区 坂元地区 相垣地区 鳥獣被害防止対策組合 合同会社大幸	R5	100%																									
			緊急捕獲	イノシシ 528頭 イノシシ(ジビエ) 136頭 イノシシ(幼) 241頭 シカ 1,292頭 シカ(ジビエ) 952頭 ジビエ(幼) 25頭 アナグマ 235頭 タヌキ 42頭 カラス 165羽			100%																									
											<p>被害金額</p> <table border="1"> <tr> <th>目標値(千円)</th> <th>実績値(千円)</th> <th>達成率(%)</th> </tr> <tr> <td>イノシシ 13,062 シカ 16,001 スズメ 1,197 カラス 2,193 カモ 4,196 ヒヨドリ 1,848 フクロドリ 776 カワウ 513 ツル 1,056 合計 40,840</td> <td>イノシシ 17,248 シカ 5,521 スズメ 1,157 カラス 2,867 カモ 8,867 ヒヨドリ 3,225 フクロドリ 926 カワウ 216 ツル 2,362 合計 42,382</td> <td>イノシシ 25% シカ 25% スズメ 108% カラス 28% カモ △160% ヒヨドリ △74% フクロドリ 55% カワウ 235% ツル △189% 合計 91%</td> </tr> </table> <p>被害面積</p> <table border="1"> <tr> <th>目標値(ha)</th> <th>実績値(ha)</th> <th>達成率(%)</th> </tr> <tr> <td>イノシシ 9.7 シカ 18.4 スズメ 1.1 カラス 1.2 カモ 0.7 ヒヨドリ 0.8 フクロドリ 0.6 カワウ - ツル 0.5 合計 33.9</td> <td>イノシシ 8 シカ 2.3 スズメ 1.0 カラス 1.3 カモ 2.2 ヒヨドリ 1.5 フクロドリ 0.6 カワウ - ツル 1.4 合計 18.3</td> <td>イノシシ 141% シカ 301% スズメ 128% カラス 86% カモ △413% ヒヨドリ △76% フクロドリ 143% カワウ - ツル △345% 合計 202%</td> </tr> </table>			目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	イノシシ 13,062 シカ 16,001 スズメ 1,197 カラス 2,193 カモ 4,196 ヒヨドリ 1,848 フクロドリ 776 カワウ 513 ツル 1,056 合計 40,840	イノシシ 17,248 シカ 5,521 スズメ 1,157 カラス 2,867 カモ 8,867 ヒヨドリ 3,225 フクロドリ 926 カワウ 216 ツル 2,362 合計 42,382	イノシシ 25% シカ 25% スズメ 108% カラス 28% カモ △160% ヒヨドリ △74% フクロドリ 55% カワウ 235% ツル △189% 合計 91%	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)	イノシシ 9.7 シカ 18.4 スズメ 1.1 カラス 1.2 カモ 0.7 ヒヨドリ 0.8 フクロドリ 0.6 カワウ - ツル 0.5 合計 33.9	イノシシ 8 シカ 2.3 スズメ 1.0 カラス 1.3 カモ 2.2 ヒヨドリ 1.5 フクロドリ 0.6 カワウ - ツル 1.4 合計 18.3	イノシシ 141% シカ 301% スズメ 128% カラス 86% カモ △413% ヒヨドリ △76% フクロドリ 143% カワウ - ツル △345% 合計 202%	<p>事業実施主体の評価</p> <p>市内猟友会による有害鳥獣捕獲が、市内の山間部を中心とする地域において計画的に実施されたことで、捕獲頭数が増加し、個体数調整につながっている。</p> <p>また、当該事業による鳥獣被害防止施設(電気柵・金網柵)の設置が、市内の山間部を中心とする地域において、団地的な取組が行われたことで、近隣の集落地域における心の高まりを生み、当該施設等の導入・設置の希望が増大している。</p> <p>被害軽減のためには、侵入防止と捕獲を地域ぐるみで効率的に実施していくことが重要であり、被害防止計画で定めた数値目標の達成等に向け、ひいては本市の農業振興を図るためにも当該事業を活用した地域ぐるみの取組みを継続していくことが必要である。</p> <p>なお、被害は減少傾向にあるが、被害防止計画の目標達成のため、更なる個体数調整が必要であると思われる。特に、イノシシ、カモ、ヒヨドリ及びその他鳥類(ツル)については、被害額が増加傾向にあることから、引き続き鳥獣被害防止施設の整備や個体数調整等による被害防止への取り組みが必要である。</p>		<p>第三者の意見</p> <p>(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 隆樹氏</p> <p>推進事業を活用して、被害防止対策の活動専用のベストが用意されており、業務としての活動とそれ以外の活動を区別することで意識の向上や活動にメリハリが付けられるよう工夫されていた。</p> <p>整備事業では、シカ被害に特化した地域で柵の整備を実施した結果、シカによる被害に大幅な改善が見られていた。一方、維持管理の指導は行われていないものの、実際の管理頻度は少なく今後の柵の維持が課題であった。</p> <p>ツルによる被害は、本市特有の事案であり、保護すべき生物を捕獲せずに被害を軽減させるのは困難である。しかしながら本種を詳細に把握することで、他の鳥獣種と比べて少ない労力で被害対策効果が得られると考えられる。</p>		<p>都道府県の評価</p> <p>有害鳥獣捕獲が計画的に実施されたことで、捕獲頭数が増加し、個体数調整につながっている。</p> <p>また、鳥獣被害防止施設(電気柵・金網柵)の設置が団地ごとに行われたことで、近隣の集落地域における心の高まりを生み、施設等の導入・設置の希望が増大しており、被害軽減のためには、侵入防止と捕獲を地域ぐるみで効率的に実施していくことが重要である。</p> <p>今後とも、被害防止計画で定めた数値目標の達成等に向け、地域ぐるみの取組みを継続していくことが必要である。</p> <p>なお、イノシシ、カモ、ヒヨドリ及びその他鳥類(ツル)については、被害額が増加傾向にあることから、引き続き鳥獣被害防止施設の整備や個体数調整等による被害防止への取り組みが必要である。</p>		
	目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)																													
	イノシシ 13,062 シカ 16,001 スズメ 1,197 カラス 2,193 カモ 4,196 ヒヨドリ 1,848 フクロドリ 776 カワウ 513 ツル 1,056 合計 40,840	イノシシ 17,248 シカ 5,521 スズメ 1,157 カラス 2,867 カモ 8,867 ヒヨドリ 3,225 フクロドリ 926 カワウ 216 ツル 2,362 合計 42,382	イノシシ 25% シカ 25% スズメ 108% カラス 28% カモ △160% ヒヨドリ △74% フクロドリ 55% カワウ 235% ツル △189% 合計 91%																													
目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)																														
イノシシ 9.7 シカ 18.4 スズメ 1.1 カラス 1.2 カモ 0.7 ヒヨドリ 0.8 フクロドリ 0.6 カワウ - ツル 0.5 合計 33.9	イノシシ 8 シカ 2.3 スズメ 1.0 カラス 1.3 カモ 2.2 ヒヨドリ 1.5 フクロドリ 0.6 カワウ - ツル 1.4 合計 18.3	イノシシ 141% シカ 301% スズメ 128% カラス 86% カモ △413% ヒヨドリ △76% フクロドリ 143% カワウ - ツル △345% 合計 202%																														
										<p>(1)定量的な事業効果(ジビエ販売量の増減) 単位:kg,円,%</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>R4年度販売</th> <th>R5年度販売</th> <th>増減量-金額</th> <th>増減率</th> </tr> <tr> <td>ジビエ販売量</td> <td>866</td> <td>4,469</td> <td>3,613</td> <td>522%</td> </tr> <tr> <td>ジビエ販売金額</td> <td>1,583,800</td> <td>7,237,851</td> <td>5,654,051</td> <td>457%</td> </tr> </table>							R4年度販売	R5年度販売	増減量-金額	増減率	ジビエ販売量	866	4,469	3,613	522%	ジビエ販売金額	1,583,800	7,237,851	5,654,051	457%		
	R4年度販売	R5年度販売	増減量-金額	増減率																												
ジビエ販売量	866	4,469	3,613	522%																												
ジビエ販売金額	1,583,800	7,237,851	5,654,051	457%																												

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)			
薩摩川内市鳥獣被害防止対策協議会	薩摩川内市全域	R3		有害捕獲被害防除	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 22人 箱わな(中) 16基 鳥獣被害防止対策推進研修会の開催 54人 農林産物の鳥獣被害に関する実態アンケート 3,403人	薩摩川内市鳥獣被害防止対策協議会		100%	集落と山の境界で、イノシシ、シカによる水稲への被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し、猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置。 地域農家による追い払いを行い、つ、侵入する個体の捕獲を実施。これらの取組により、本市におけるイノシシの有害捕獲捕獲頭数は146.6%増加、シカの有害捕獲捕獲頭数は145%増加(施設整備前の令和元年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで2,077頭、シカで3,271頭。)	イノシシ 40,645 シカ 15,733 サル 148 ウサギ 1,402 タヌキ 1,436 アナグマ - スズメ 2,648 カラス 842 ヒヨドリ 1,271 ハト - カモ - キジ - 合計 64,131	イノシシ 10,483 シカ 2,481 サル - ウサギ 33 タヌキ 99 アナグマ 952 スズメ 293 カラス 119 ヒヨドリ 30 ハト 4 カモ 179 キジ 2 合計 14,666	イノシシ 273% シカ 297% サル 331% ウサギ 327% タヌキ 319% アナグマ 皆増 スズメ 307% カラス 300% ヒヨドリ 327% ハト 皆増 カモ 皆増 キジ 皆増 合計 283%	イノシシ 37.4 シカ 14.8 サル 0.1 ウサギ 1.4 タヌキ 1.1 アナグマ - スズメ 2.6 カラス 0.7 ヒヨドリ 0.8 ハト - カモ - キジ - 合計 58.8	イノシシ 12.1 シカ 3.1 サル - ウサギ 0.1 タヌキ 0.0 アナグマ 0.3 スズメ 0.3 カラス 310.0 ヒヨドリ 0.0 ハト 0.0 カモ 0.3 キジ 0.0 合計 16.2	イノシシ 258% シカ 284% サル 300% ウサギ 324% タヌキ 324% アナグマ 皆増 スズメ 307% カラス 310% ヒヨドリ 332% ハト 皆増 カモ 0.3 キジ 0.0 合計 283%	緊急捕獲活動支援事業を活用した 個体管理、鳥獣被害対策実践事業(整備事業)や市単独事業を活用したワイヤーメッシュ柵等の設置による侵入防止対策等を一時的に実施した結果、被害金額や被害面積の減少に一定の効果があったとされている。また、市では単独で予算を確保し、小規模農地への施設置助成が行われており、多くの農家に活用されている。 被害防止計画の目標は、金額、面積ともに達成できている。次期計画以降も成果が得られるよう各項目について取組みの継続が期待される。	地域農家による追い払いを行い、つ、進入路となる河川や道路に箱ワナを設置、侵入する個体の捕獲を実施しており、また、緊急捕獲活動支援事業を活用した個体管理、鳥獣被害対策実践事業(整備事業)や市単独事業を活用したワイヤーメッシュ柵等の設置による侵入防止対策等を一時的に実施した結果、被害金額や被害面積の減少に一定の効果があった。しかしながら、侵入防止対策等が間に合わない地域もあり、被害の深刻化が改善されない地域もあり、今後とも、取組の継続が必要である。	被害防止計画の目標は、金額、面積ともに達成できている。次期計画以降も成果が得られるよう各項目について取組みの継続が期待される。
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 4,540m	第二大馬越鳥獣被害対策組合	R3	100%										
				緊急捕獲	イノシシ 2,629頭 (捕獲頭数にの増加に応じた加算 うち986頭) イノシシ(幼) 52頭 シカ 4,163頭 (捕獲頭数にの増加に応じた加算 うち717頭) シカ(幼) 2頭	-	100%											
		有害捕獲被害防除推進体制の整備	猟友会取得事前講習会受講料助成 20人 大型獣用箱わな(高開き) 2基 大型獣用箱わな(片開き) 11基 中型獣用箱わな(片開き) 23基 鳥獣被害防止対策推進研修会の開催 64人 農林産物の鳥獣被害に関する実態アンケート 3,277人 事務用品	薩摩川内市鳥獣被害防止対策協議会	R4	100%												
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 1,430.1m	馬場尾鳥獣被害対策組合	R4	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 2,575頭 イノシシ(幼) 60頭 シカ 4,294頭	-	100%													
薩摩川内市鳥獣被害防止対策協議会	薩摩川内市全域	R5		有害捕獲被害防除推進体制の整備	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 17人 大型獣用箱わな 8基 中型獣用箱わな 44基 小型獣用箱わな 12基 鳥獣被害防止対策推進研修会の開催 87人 農林産物の鳥獣被害に関する実態アンケート 3,010人 事務用品 ニホンザル生態調査業務の委託 調査場所:薩摩川内市樋原町市比野(藤本・野下)地内 面いわなの購入 事業量 H=4,000mm、L=5,000mm、H=2,500mm	薩摩川内市鳥獣被害防止対策協議会 管理委託先:合同会社南九州野生動物保護管理センター 代表社員 送井隆之 管理主体:藤本地区コミュニティ協議会、野下地区コミュニティ協議会	R5	100%	集落と山の境界で、イノシシ、シカによる水稲への被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し、猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置。 地域農家による追い払いを行い、つ、侵入する個体の捕獲を実施。これらの取組により、本市におけるイノシシの有害捕獲捕獲頭数は146.6%増加、シカの有害捕獲捕獲頭数は145%増加(施設整備前の令和元年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで2,077頭、シカで3,271頭。)	イノシシ 10,812 シカ 3,512 サル 41 アナグマ 1,214 カラス 1,194 スズメ 173 ヒヨドリ 149 合計 17,095	イノシシ 25,579 シカ 23,241 サル 441 アナグマ 483 カラス 815 スズメ 7 ヒヨドリ 763 合計 51,328	イノシシ Δ219% シカ Δ1,211% サル Δ2,122% アナグマ 241% カラス 174% スズメ 324% ヒヨドリ Δ859% 合計 Δ367%	イノシシ 14.1 シカ 7.8 サル 0.1 アナグマ 0.2 カラス 0.2 スズメ 0.2 ヒヨドリ 0.0 合計 22.6	イノシシ Δ27% シカ 47% サル Δ450% アナグマ 310% カラス 150% スズメ 300% ヒヨドリ Δ150% 合計 5%	緊急捕獲活動支援事業を含む有害鳥獣捕獲は、町内3つの猟友会が旧町の範囲を超えて捕獲活動が行えるようになっており、他の自治体でも参考とすべき優良事業と考えられた。 ジビエ加工施設の運営は、全国的にいずれの施設も苦戦している。令和5年度から新たに定めた数値目標を3年後(令和8年度)に達成するためにも、当該事業を活用した侵入防止柵の整備や緊急捕獲、また、農林業者が自ら守る対策への支援として、産談会等の開催による周知啓発を進めてまいりたい。	被害防止計画の目標は、金額、面積ともに達成できている。次期計画以降も成果が得られるよう各項目について取組みの継続が期待される。	被害防止計画の目標は、金額、面積ともに達成できている。次期計画以降も成果が得られるよう各項目について取組みの継続が期待される。	
				サルの複合対策		R5	100%											
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 4,451.5m ワイヤーメッシュ柵 1地区 7,628.5m	段島獣害対策組合 沖ノ田鳥獣被害対策組合	R5	100%										
		緊急捕獲	イノシシ 2,927頭 イノシシ(幼) 79頭 シカ 4,565頭 シカ(幼) 3頭	-	100%													
		有害捕獲被害防除推進体制の整備	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 7人 生息状況調査員1人(1人分・135日) 調査員燃料代(7月~1月) 1人 調査員労災保険料 1人 サル用捕獲用いわな購入(ワイヤー製) 10基 自動撮影カメラ購入 1基 会議開催事務費	さつま町鳥獣被害防止対策協議会	R3	100%												
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 1,200m ワイヤーメッシュ柵 1地区 1,370m ワイヤーメッシュ柵 1地区 4,220m ワイヤーメッシュ柵 3地区 752m	野間獣害防止対策組合 田原獣害防止対策組合 飯塚原獣害防止対策組合 各組合(3地区)	R3	100%												
緊急捕獲	イノシシ 1,480頭 (捕獲頭数にの増加に応じた加算 うち218頭) シカ 2,845頭 サル 3頭	-	100%															
さつま町鳥獣被害防止対策協議会	さつま町全域	R3		有害捕獲被害防除推進体制の整備	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 3人 生息状況調査員1人(1人分・135日) 調査員燃料代(7月~2月) 1人 調査員労災保険料 1人 サル用捕獲用いわな購入 1基 実施研修費 会議開催事務費	さつま町鳥獣被害防止対策協議会	R4	100%	集落と山の境界で、イノシシ、シカによる水稲への被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し、猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置。 地域農家による追い払いを行い、つ、侵入する個体の捕獲を実施。これらの取組により、本市におけるイノシシの有害捕獲捕獲頭数は146.6%増加、シカの有害捕獲捕獲頭数は145%増加(施設整備前の令和元年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで2,077頭、シカで3,271頭。)	イノシシ 10,812 シカ 3,512 サル 41 アナグマ 1,214 カラス 1,194 スズメ 173 ヒヨドリ 149 合計 17,095	イノシシ 25,579 シカ 23,241 サル 441 アナグマ 483 カラス 815 スズメ 7 ヒヨドリ 763 合計 51,328	イノシシ Δ219% シカ Δ1,211% サル Δ2,122% アナグマ 241% カラス 174% スズメ 324% ヒヨドリ Δ859% 合計 Δ367%	イノシシ 14.1 シカ 7.8 サル 0.1 アナグマ 0.2 カラス 0.2 スズメ 0.2 ヒヨドリ 0.0 合計 22.6	イノシシ Δ27% シカ 47% サル Δ450% アナグマ 310% カラス 150% スズメ 300% ヒヨドリ Δ150% 合計 5%	緊急捕獲活動支援事業を含む有害鳥獣捕獲は、町内3つの猟友会が旧町の範囲を超えて捕獲活動が行えるようになっており、他の自治体でも参考とすべき優良事業と考えられた。 ジビエ加工施設の運営は、全国的にいずれの施設も苦戦している。令和5年度から新たに定めた数値目標を3年後(令和8年度)に達成するためにも、当該事業を活用した侵入防止柵の整備や緊急捕獲、また、農林業者が自ら守る対策への支援として、産談会等の開催による周知啓発を進めてまいりたい。	被害防止計画の目標は、金額、面積ともに達成できている。次期計画以降も成果が得られるよう各項目について取組みの継続が期待される。	被害防止計画の目標は、金額、面積ともに達成できている。次期計画以降も成果が得られるよう各項目について取組みの継続が期待される。	
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 970m ワイヤーメッシュ柵 1地区 2,930m 電気柵(4段) 1地区 9,600m	下川口獣害防止対策組合 城ノ下獣害防止対策組合 荒瀬獣害防止対策組合	R4	100%										
				緊急捕獲	イノシシ 1,020頭 シカ 2,137頭 サル 1頭	-	100%											
		有害捕獲被害防除推進体制の整備	狩猟講習会助成 11人 生息状況調査員1人(1人分・135日) 調査員燃料代(7月~2月) 1人 調査員労災保険料 1人 実施研修費 会議開催事務費	さつま町鳥獣被害防止対策協議会	R5	100%												
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 1,500m 電気柵(4段) 1地区 1,300m ワイヤーメッシュ柵 17地区 2,732m ※令和3年7月豪雨災害復旧(17地区)	・大平獣害防止対策組合 ・宮之脇獣害防止対策組合 ・各組合(17地区)	R5	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 1,841頭 シカ 3,020頭 サル 5頭	-	100%													

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価				
										被害金額			被害面積									
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)							
伊佐市有害鳥獣対策協議会	伊佐市全域	R3	イノシシ シカ サル アナグマ タヌキ ノウサギ ヒヨドリ カラス スズメ カモ カワラバト カワウ	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 16人 箱わな(特用) 1基	伊佐市有害鳥獣対策協議会		100%														
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 11地区 15,881m 電気柵(5段) 9地区 5,347m	(WM柵) 管木、白木、平出水1、下殿、平出水2、東市山、上市山、東市山、針持、宮人、川岩瀬(電気柵) 針持1、針持2、田代、井立田、井立田、針持3、針持4、平出水3、尾之上 侵入防止柵管理組合	R3	100%	中山間地域において、イノシシ、シカによる水稲、飼料作物、大豆、サツマイモ等の被害が多発していたことから、環境省の指定管理鳥獣捕獲等事業と連携しつつ、緊急捕獲活動支援事業を活用し農地周辺において猟友会が有害捕獲を行うとともに、ほ場を囲うように侵入防止柵を設置。 進入路となる山林や道路等にくりくり鹿及び箱わなを設置。伊佐市におけるイノシシの有害捕獲の捕獲頭数は6%増加、シカについては18%増加している。													
				緊急捕獲	イノシシ 428頭 (捕獲頭数にの増加に応じた加算 うち24頭) シカ 1,741頭 (捕獲頭数にの増加に応じた加算 うち373頭)	-	100%	令和4年度ではイノシシが816頭、シカが2,933頭。令和5年度はイノシシが869頭、シカが3,474頭。 (ジビエの利用拡大に向けた地域の取組) 1 ジビエ販売量ある以前年度の実績を 下回ったの要因と対応 →県が実施した指定管理鳥獣(ニホンジカ)の捕獲強化支援事業(R3~R5年度 事業、1頭につき12,000円、埋設が条件)や搬入時の「捕獲・受入個体記録表」の記録など受入体制が不十分であったため、処理施設への搬入が激減したと思われる。 今後は、各猟友会を通じ猟友会員へ 処理施設への搬入を促し、搬入時の「捕獲・受入個体記録表」の記録を職員が聞き取り対応し搬入しやすい体制を取る。														
			有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 33人 箱わな(大) 2基 くりわな 35基	伊佐市有害鳥獣対策協議会		100%	伊佐市におけるイノシシの有害捕獲頭数は約38%増加、シカの有害捕獲頭数は27%増加(施設整備前の平成19年度の有害捕獲頭数のデータはなく、最も古い平成20年度データでは年間の有害捕獲頭数はイノシシで375頭、シカで1,255頭。平成20年10月に竣工し、整備後の令和5年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで1,432頭、シカで3,474頭。なお、狩猟による捕獲頭数は平成26年度と施設整備後で捕獲頭数に変化なし)														
			鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 7地区 18,977m 電気柵(5段) 3地区 14,980m	(WM柵) 管木、青木、平出水、田代、山野1、山野2、山野3 (電気柵) 南浦、下殿、針持 侵入防止柵管理組合	R4	100%															
			緊急捕獲	イノシシ 419頭 シカ 1,707頭	-	100%																
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 10人 箱わな(大) 2基	伊佐市有害鳥獣対策協議会		100%																
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 9地区 24,775m 電気柵(5段) 2地区 8,550m 電気柵シート 2地区 2,369m	(WM柵) 平出水①、田代、山野、白木、牛尾、山野、針持、平出水② (電気柵) 南浦①、南浦② 侵入防止柵管理組合	R5	100%																
		緊急捕獲	イノシシ 644頭 シカ 2,162頭	-	100%																	
		垂水市有害鳥獣捕獲対策協議会 (垂水市)	垂水市全域	R3	イノシシ シカ サル アナグマ タヌキ ノウサギ ヒヨドリ ドバト	鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 2,437m ワイヤーメッシュ柵 1地区 2,141m	海潟地区管理組合 中俣地区管理組合		100%												
						緊急捕獲	イノシシ 241頭 サル 55頭 タヌキ 36頭 アナグマ 40頭 ヒヨドリ 60羽 カラス 50羽	-	100%													
						鳥獣被害防止施設	複合柵(WM柵+電気柵3段) 2,488m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 1,240m 複合柵(WM柵+電気柵3段) 834m ワイヤーメッシュ柵 1,276m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 2,517m	牛根蘭地区管理組合 中浜地区管理組合 松崎地区管理組合 下市本地区管理組合 由上地区管理組合 金鳥井・是井ノ元地区管理組合	R4	100%	ワイヤーメッシュ柵及び電気柵を設置したことにより、囲んだ農地とその周辺農地へはイノシシやサルが侵入することがなくなった。また、垂水市猟友会による有害鳥獣捕獲活動による個体数減少を図るよう努めた。											
緊急捕獲	イノシシ 237頭 イノシシ(幼) 77頭 サル 88頭 タヌキ 78頭 アナグマ 164頭 ヒヨドリ 142羽 カラス 74羽				-	100%																
鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 3,076m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 1,680m ワイヤーメッシュ柵 1,570m ワイヤーメッシュ柵				的場地区管理組合 中野地区管理組合 金鳥井・是井ノ元地区管理組合 上野台地・平谷地区管理組合	R5	100%															
緊急捕獲	イノシシ 249頭 イノシシ(幼) 124頭 サル 80頭 タヌキ 83頭 アナグマ 105頭 ヒヨドリ 613羽 カラス 22羽				-	100%																
R4	イノシシ シカ サル アナグマ タヌキ ノウサギ ヒヨドリ ドバト			鳥獣被害防止施設	複合柵(WM柵+電気柵3段) 2,488m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 1,240m 複合柵(WM柵+電気柵3段) 834m ワイヤーメッシュ柵 1,276m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 2,517m	牛根蘭地区管理組合 中浜地区管理組合 松崎地区管理組合 下市本地区管理組合 由上地区管理組合 金鳥井・是井ノ元地区管理組合	R4	100%	侵入防護柵整備地区においては被害が減少し、安定した経営が図られ、受益者の生産意欲の向上にもつなげることができた。今後も侵入防止柵の適切な管理運営に努め、指導・助言等を行っていくことで、効果を持続させていく。一方で、その他の未整備地区については、従来、当該地区に侵入していた鳥獣に加え、侵入防護柵整備地区から行動範囲を移した鳥獣により、以前にも増して被害が多発している。 捕獲活動においては鳥獣出没の通報に対し、実施隊及び猟友会が迅速に対応し見回り活動や捕獲活動により農作物被害軽減に一定の効果が得られている。しかしながら、依然として鳥獣の潜在数及び繁殖による増加数も多いと思われる。結果として被害額が目標値に達していない。													
				緊急捕獲	イノシシ 515頭 サル 990頭 タヌキ 81頭 アナグマ 159頭 ヒヨドリ 353頭 カラス 2,100頭	-	100%															
				鳥獣被害防止施設	複合柵(WM柵+電気柵3段) 2,488m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 1,240m 複合柵(WM柵+電気柵3段) 834m ワイヤーメッシュ柵 1,276m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 2,517m	牛根蘭地区管理組合 中浜地区管理組合 松崎地区管理組合 下市本地区管理組合 由上地区管理組合 金鳥井・是井ノ元地区管理組合	R4	100%														
	緊急捕獲			イノシシ 701頭 サル 1,399頭 タヌキ 126頭 アナグマ 213頭 ヒヨドリ 472頭 カラス 2,911頭	-	100%																
	鳥獣被害防止施設			複合柵(WM柵+電気柵3段) 2,488m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 1,240m 複合柵(WM柵+電気柵3段) 834m ワイヤーメッシュ柵 1,276m ワイヤーメッシュ柵、複合柵(WM柵+電気柵3段) 2,517m	牛根蘭地区管理組合 中浜地区管理組合 松崎地区管理組合 下市本地区管理組合 由上地区管理組合 金鳥井・是井ノ元地区管理組合	R4	100%															
	緊急捕獲			イノシシ 515頭 サル 990頭 タヌキ 81頭 アナグマ 159頭 ヒヨドリ 353頭 カラス 2,100頭	-	100%																

(1) 定量的な事業効果(ジビエ販売量の増減) 単位: kg, 円, %

	R元4年度販売量 ①	R5年度販売量 ②	増減量・金額 ②-①	増減率 ②/①
ジビエ販売量	291	?	-289	1%
ジビエ販売金額	974,090	34,813	-939,277	6%

事業効果	イノシシ	シカ	ノウサギ	合計
被害金額	4,288	18,069	316	22,672
被害面積	15,055	26,129	-	41,184
達成率(%)	△48%	△4%	34%	△91%
目標値(ha)	3.7	15.1	0.2	19.2
実績値(ha)	12.3	10.6	-	22.9
達成率(%)	△440%	168%	300%	54%

これまでには捕獲の方に力を入れており、イノシシ、シカ共に捕獲頭数も増加しているが、生息数は減少しておらず、被害額及び被害面積についてはあまり効果が得られていない状況である。
今後は防除の方にも力を入れて、侵入防止柵の整備を進め、被害軽減に努める必要がある。

(合同会社) 南九州野生動物保護管理センター
代表 浅井 隆之

イノシシ、シカの捕獲、侵入防止柵の設置に取り組んでいるが、生息数が多いことから、被害金額・面積ともに軽減されていない。
引き続き、捕獲や侵入防止柵の設置と適正な管理を行うとともに、鳥獣を「寄せ付けない」ための集落ぐるみでの被害防止対策の総合的な取組が必要である。

合同会社南九州野生動物保護管理センター
浅井 隆之

・目標達成率は、被害金額10%、被害面積0%と未達成。
・事業を活用した結果、有害鳥獣捕獲頭数の増加や侵入防止柵整備地区での被害は減少している。
・今後取り組むべき方向性として、事業を活用して鳥獣の繁殖増加や群れの行動範囲について正確な調査・把握を行うとともに、これを踏まえた効果的な被害防止活動を実施する必要がある。

侵入防護柵整備地区においては被害が減少し、安定した経営が図られ、受益者の生産意欲の向上にもつなげることができた。今後も侵入防止柵の適切な管理運営に努め、指導・助言等を行っていくことで、効果を持続させていく。一方で、その他の未整備地区については、従来、当該地区に侵入していた鳥獣に加え、侵入防護柵整備地区から行動範囲を移した鳥獣により、以前にも増して被害が多発している。
捕獲活動においては鳥獣出没の通報に対し、実施隊及び猟友会が迅速に対応し見回り活動や捕獲活動により農作物被害軽減に一定の効果が得られている。しかしながら、依然として鳥獣の潜在数及び繁殖による増加数も多いと思われる。結果として被害額が目標値に達していない。

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の詳細	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)			
曾於市有害鳥獣被害防止対策協議会 (曾於市)	曾於市全域	R3	イノシシ	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 10人	曾於市有害鳥獣被害防止対策協議会	R3	100%	<p>・主にイノシシによる水稲や甘藷等の被害が多発していたことから、整備事業を活用して被害が多発していた農地に侵入防止柵を設置し、当該農地における被害を防止することができた。この柵の周辺に積極的に柵を配置した他、緊急捕獲活動支援事業を活用し捕獲隊が有害捕獲を行うとともに、狩猟期も含めた通年において捕獲隊に捕獲指示を出し、推進事業を活用してイノシシ用箱罠22基を協議会で購入の上捕獲隊に貸出した結果、イノシシの有害捕獲捕獲頭数は約6倍、シカの有害捕獲頭数は約2.5倍となった(施設整備前の令和元年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで310頭、シカで50頭。令和5年3月に竣工し、整備後の令和5年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで1,037頭、シカで90頭。なお、狩猟による捕獲頭数は施設整備前後で捕獲頭数に変化なし)。</p>	イノシシ 4,544 タヌキ 106 ウサギ 269 シカ 97 アナグマ - カラス 524 スズメ 118 ヒヨドリ 324 計 5,982	イノシシ 13,544 タヌキ 171 ウサギ 418 シカ 478 アナグマ 117 カラス 365 スズメ 177 ヒヨドリ 57 計 15,327	イノシシ Δ362 タヌキ Δ41 ウサギ Δ30 シカ Δ829 アナグマ 管轄 カラス 171 スズメ 22 ヒヨドリ 278 サル 管轄 計 Δ264	イノシシ 4.4 タヌキ 0.2 ウサギ 0.3 シカ 0.2 アナグマ - カラス 0.2 スズメ 0.1 ヒヨドリ 0.1 計 5.4	イノシシ 15.2 タヌキ 0.2 ウサギ 0.4 シカ 0.1 アナグマ 0.5 カラス 0.1 スズメ 0.2 ヒヨドリ 0.1 計 16.6	イノシシ Δ481% タヌキ 100% ウサギ 15% シカ 243% アナグマ 管轄 カラス 289% スズメ 60% ヒヨドリ 175% 計 Δ383%	<p>・侵入防止柵は設置前において80%のイノシシによる被害があった水稲が、設置後は0%になる等、絶大な効果を得ている。ただし穴を掘って侵入しようとする形跡がある等、今後も協議会が管理団体に、適切な維持管理の指導を行っていく必要がある。</p> <p>・イノシシを筆頭に有害捕獲頭数は飛躍的に増大しているが、被害が減少していないのは、急激な過疎化に伴う山形の荒廃以外にも、危険な増えが減少している理由が、個体数の増に捕獲隊が追いつかない現状がある。しかし捕獲の圧力を弱めれば、爆発的な個体数増及び農作物被害の拡大に繋がりにくいので、今後も捕獲の圧力を強力に行いつつも、捕獲隊の意見を聞きながら、捕獲活動が可能なエリアを少しでも広げていく必要がある。</p>	<p>合同会社南九州野生動物保護管理センター 浅井 隆之氏</p> <p>現状のイノシシに対する捕獲圧を維持することは非常に重要かと思いますが、圧倒的に幼獣の捕獲が少ないように思います。原因はくくり罠や置き罠がメインであることかもしませんが、捕獲の効果を最大化するためにも、多頭数の同時捕獲を狙えるような箱罠や罠の捕獲を推奨することも大事かと思われました。捕れる地域での捕り逃がしを防止、スレ個体の出現を可能な限り抑えていくことが重要だと思います。防除柵については、被害軽減効果が絶大だと思いますので、今後も普及啓発活動と併せて積極的に進めていく必要があると思われました。</p>	<p>・目標達成率は、被害金額▲264%、被害面積▲383%と未達成。 ・事業を活用した結果、有害鳥獣捕獲頭数の増加や侵入防止柵整備地区での被害は減少している。</p>
				緊急捕獲	イノシシ 437頭 (捕獲頭数に増加に応じた加算 うち89頭) イノシシ(幼) 5頭 シカ 76頭 (捕獲頭数に増加に応じた加算 うち41頭)													
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 10人 イノシシ用箱わな(高開き) 22基	曾於市有害鳥獣被害防止対策協議会				100%								
		R4	イノシシ サル アナグマ タヌキ ノウサギ ヒヨドリ カラス スズメ	鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 4地区 11,500m	大基地区集落管農組合 小久保基産農組合 天神嶺土地改良区中村地区 大隅町並木原土地改良区	R4	100%										
				緊急捕獲	イノシシ 480頭 イノシシ(幼) 4頭 シカ 45頭													
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 10人	曾於市有害鳥獣被害防止対策協議会	100%											
		R5	イノシシ イノシシ(幼) シカ	鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 7,200m	大隅町並木原土地改良区 岩元稲作組合	R5	100%										
				緊急捕獲	イノシシ 1,045頭 イノシシ(幼) 10頭 シカ 60頭(うちシカ対策17頭)													
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 10人	曾於市有害鳥獣被害防止対策協議会	100%											
志布志市有害鳥獣被害対策協議会 (志布志市)	志布志市全域	R3	イノシシ	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 7人 箱わな(大) 1基	志布志市有害鳥獣被害対策協議会	R3	100%	<p>・推進事業として、狩猟免許初心者講習助成を実施しており、令和3年度に7名の新規取得、令和4年度に4名の新規取得、令和5年度に9名の新規取得者が増加している。</p> <p>・整備事業として、令和3年度に前田地区2,000m、令和4年度に堂免地区2,160m、令和5年度に平野地区2,520mのワイヤーメッシュ柵を設置。被害状況は全地区同じであり、水田地帯の隣接する山林から出没するイノシシによる水稲の被害が非常に多い地区であった。柵設置後、地区毎のイノシシ被害の件数は0件となった。</p> <p>・緊急捕獲活動支援事業については、被害規模の大きいイノシシに対して、実績を残しており、少しずつ被害軽減につながっている。</p>	イノシシ 2,851 カラス 8 タヌキ 22 アナグマ 638 計 3,518	イノシシ 1,092 カラス - タヌキ - アナグマ - 計 1,092	イノシシ 244% カラス 367% タヌキ 344% アナグマ 334% 計 261%	イノシシ 1.1 カラス 0.0 タヌキ 0.0 アナグマ 0.2 計 1.3	イノシシ 1.1 カラス - タヌキ - アナグマ - 計 1.1	イノシシ 114% カラス 33% タヌキ 33% アナグマ 334% 計 146%	<p>・推進事業として、例年狩猟免許初心者講習助成を実施しており、年間5名程度の免許取得者がいることで、狩猟免許取得者総数の維持に繋がっている。</p> <p>・整備事業として、ワイヤーメッシュ柵の設置をしており、隣接する山林からのイノシシの出没が多い地域であった各地区において、柵設置以降のイノシシの被害はゼロになった。また、各地区生産組合内で協力し、ワイヤーメッシュ柵の維持管理に繋がっている。</p> <p>・緊急捕獲活動支援事業による有害鳥獣捕獲に係る経費補填としての機能が、捕獲従事者の動機付けになっている。</p>	<p>合同会社南九州野生動物保護管理センター 浅井 隆之氏</p> <p>推進事で新規狩猟免許取得者の増加もでき、整備事業で被害防除ができるように思います。新規狩猟免許取得者をさらに増やすことで、志布志市のみならず大隅地域全体の獣害に携わる人材育成も可能になると思います。そのためにICT技術の導入などにより、効率的な捕獲作業が行えるようにサポートすることも重要だと思います。</p>	<p>目標達成率は、被害金額261%、被害面積146%と達成。事業の効果が目に見える形で現れていると考える。</p>
				緊急捕獲	イノシシ 204頭													
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 4人 箱わな(大) 1基	志布志市有害鳥獣被害対策協議会				100%								
		R4	イノシシ サル アナグマ タヌキ ノウサギ ヒヨドリ カラス カモ	鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 2,160m	堂免地区生産組合	R4	100%										
				緊急捕獲	イノシシ 179頭													
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 9人 箱わな(大) 1基	志布志市有害鳥獣被害対策協議会	100%											
		R5	イノシシ	鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 2,520m	平野地区生産組合	R5	100%										
				緊急捕獲	イノシシ 305頭													
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 9人 箱わな(大) 1基	志布志市有害鳥獣被害対策協議会	100%											
大崎町鳥獣被害防止・捕獲対策推進協議会 (大崎町)	大崎町全域	R3	イノシシ	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 先進事例調査研修 8人 箱わな(小) 5基	大崎町鳥獣被害防止・捕獲対策推進協議会	R3	100%	<p>【推進事業】 ・狩猟免許取得を助成することにより、高齢化の進んでいる猟友会ではあるが、若手の狩猟免許取得者による入会が増えている。また、自己防衛を目的とした免許取得者も現れてきており、令和5年度では6人が狩猟免許を取得した。</p> <p>・鳥獣被害対策の先進事例研修・集落ぐるみの研修会開催により、集落を取り組む鳥獣被害対策など、自己防衛の意識を高めることができています。自己防衛策として電気柵設置に対する町単独補助を行っているが申請件数も増加している。</p> <p>R3 5件 R4 11件 R5 26件</p> <p>【整備事業】 ・対象地区での耕作地におけるイノシシ被害が起きていない状況であり、耕作者の負担軽減が図られている。依然としてイノシシの多い地区ではあるが、今後とも適正な管理を行い、被害の発生が減少するものと見込まれる。</p>	イノシシ 821 サル 253 タヌキ 20 アナグマ 844 ヒヨドリ 844 計 1,947	イノシシ 1,271 サル - タヌキ - アナグマ 3 ヒヨドリ 664 計 1,947	イノシシ Δ28% サル 332% タヌキ 322% アナグマ 267% ヒヨドリ 150% 計 101%	イノシシ 0.7 サル 0.1 タヌキ 0.0 アナグマ 0.0 ヒヨドリ 0.3 計 1.1	イノシシ 1.3 サル - タヌキ - アナグマ 0.0 ヒヨドリ 0.3 計 1.6	<p>【推進事業】 狩猟免許の若手の新規取得者増加に伴い、猟友会員の平均年齢が下がってきており、有害鳥獣捕獲における次世代への技術継承等が見込まれる。</p> <p>【整備事業】 イノシシによる被害が多い地区でのワイヤーメッシュ柵の設置であったが、被害発生が現在ないことから事業効果は高いと思われる。今後とも適正な管理等を継続していくことが重要である。</p>	<p>合同会社南九州野生動物保護管理センター 浅井 隆之氏</p> <p>新規狩猟免許取得者が多いのは素晴らしいことだと思います。ICT技術などの積極的な導入により、より効率的な捕獲実施環境を作ること重要だと感じました。捕獲技術の伝承も重要ですが、既存の捕獲手法だけではなく、大型罠い罠を使用した多頭数を狙った捕獲など、新しい取り組みをすることも重要だと思います。被害防除もさらに広がることで、被害軽減と増加率の抑制にもつながり捕獲もより一層効果的になると考えますので、被害面積が増えている地域への普及啓発と併せて行えると良いと思います。</p>	<p>・目標達成率は、被害金額が101%と達成し、被害面積は▲2%と未達成。 ・事業を活用した結果、有害鳥獣捕獲頭数の増加や侵入防止柵整備地区での被害は減少している。</p> <p>・今後取り組むべき方向性として、事業を活用して箱罠の増加や集落単位の侵入防止柵設置、地域ぐるみでの被害防止対策の有効性を普及啓発する必要があります。</p>	
				緊急捕獲	イノシシ 133頭 イノシシ(幼) 38頭 タヌキ 26頭 アナグマ 34頭													
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 先進事例調査研修 4人 研修教材一式(電気柵一式) 止めさし資料 1基	大崎町鳥獣被害防止・捕獲対策推進協議会				100%								
		R4	イノシシ サル アナグマ タヌキ ノウサギ ヒヨドリ カラス スズメ カモ トビ	緊急捕獲	イノシシ 138頭 イノシシ(幼) 19頭 タヌキ 50頭 アナグマ 49頭													
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 6人 先進事例調査研修 3人 研修教材一式(電気柵一式) 箱わな(小) 4基	大崎町鳥獣被害防止・捕獲対策推進協議会	100%											
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 4,500m	立小野地区被害協定	R5	100%										
		R5	イノシシ イノシシ(幼) タヌキ アナグマ カラス	緊急捕獲	イノシシ 129頭 イノシシ(幼) 39頭 タヌキ 38頭 アナグマ 23頭 カラス 1羽													

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の詳細	第三者の意見	都道府県の評価		
										被害金額			被害面積							
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)					
錦江町鳥獣被害防止対策協議会	錦江町全域	R3	有害捕獲	サル捕獲箱(中) 4基 有香捕獲活動 6人		錦江町鳥獣被害防止対策協議会		100%												
				鳥獣被害防止施設	電気柵(2段) 1地区 3,240m 電気柵(2段) 1地区 6,040m 電気柵(2段) 1地区 5,840m 電気柵(2段) 1地区 9,180m 電気柵(2段) 1地区 6,426m		帯り山電気柵利用組合 弘川大根田御手洗電気柵利用組合 下電気柵利用組合 永山田地電気柵利用組合 パイロット田地電気柵利用組合		R3	100%										
					緊急捕獲	イノシシ 136頭 イノシシ(幼) 34頭 シカ 3頭 タヌキ 259頭 アナグマ 80頭 カラス 6羽					100%									
			誘導捕獲柵わな			移動式捕獲柵 1基 4.0m×5.2m×2.6m 有香捕獲活動 6人		錦江町鳥獣被害防止対策協議会			100%	イノシシやタヌキ、アナグマによる水稲やさつまいもへの被害が多く、整備事業により侵入防護柵(電気柵)の設置を行うとともに、緊急捕獲活動支援事業を活用し、猟友会が中心となり有害捕獲を行った。	イノシシ 5,697 サル 829 タヌキ 780 アナグマ 715 ノウサギ 927 カラス 1,070 スズメ 155 ヒヨドリ 791 トバト 449 合計 11,410	イノシシ 8,014 サル 1,564 タヌキ 1,280 アナグマ 1,309 ノウサギ 926 カラス 1,089 スズメ 268 ヒヨドリ 713 トバト 564 合計 15,722	イノシシ 5% サル △107% タヌキ △50% アナグマ △94% ノウサギ 100% カラス 96% スズメ △71% ヒヨドリ 123% トバト 40% 合計 12%	イノシシ 4.9 サル 0.5 タヌキ 0.4 アナグマ 0.4 ノウサギ 0.1 カラス 0.5 スズメ 0.2 ヒヨドリ 0.1 トバト 0.3 合計 8.3	イノシシ 8.8 サル 0.7 タヌキ 1.1 アナグマ 1.1 ノウサギ 0.4 カラス 0.7 スズメ 0.3 ヒヨドリ 0.1 トバト 0.5 合計 △49%	イノシシ △88% サル 10% タヌキ △274% アナグマ △350% ノウサギ △383% カラス 225% スズメ △14% ヒヨドリ △50% トバト 7% 合計 △49%	整備事業による侵入防護柵(電気柵)を設置した地区については、被害が減少しており、一定の効果が認められ、安定した経営が図られているが、設置していない地区において被害の増加や、町内全域での個体数の増加が見受けられるため、引き続き侵入防護柵等の導入を推進していきたい。	緊急捕獲活動は十分成果が上がっていると思います。今以上の捕獲率は難しいと思うので、それよりは狩猟者確保を優先されるべき方向性として、事業を活用して鳥獣捕獲免許所有者の増加や鳥獣の繁殖増加や群れの行動範囲について正確な調査・把握を行うとともに、これを踏まえた集落単位の侵入防止柵設置、地域ごとの被害防止対策の有効性を普及啓発する必要がある。
				鳥獣被害防止施設		電気柵(2段) 1地区 3,480m 電気柵(2段) 1地区 3,382m 電気柵(2段) 1地区 2,530m		鳥ノ尾電気柵利用組合 牧ノ尾電気柵利用組合 葛瀬ヶ追電気柵利用組合		R4	100%	これらの取組により、有害捕獲頭数が、イノシシにおいて428頭(R1)から654頭(R5)へ、タヌキは233頭(R1)から545頭(R5)へ、アナグマは115頭(R1)から163頭(R5)へ捕獲頭数が増加しており、それぞれの事業の効果が顕著に表れている。								
					緊急捕獲	イノシシ 110頭 イノシシ(幼) 30頭 タヌキ 179頭 アナグマ 41頭 ヒヨドリ 5羽 カラス 4羽				100%										
		有害捕獲	有害捕獲活動 6人				錦江町鳥獣被害防止対策協議会			100%										
			鳥獣被害防止施設	電気柵(2段) 1地区 9,802m 電気柵(2段) 1地区 2,416m			神川城電気柵利用組合 瀬戸山電気柵利用組合		R5	100%										
				緊急捕獲	イノシシ 191頭 イノシシ(幼) 29頭 シカ 3頭 タヌキ 172頭 アナグマ 47頭 カラス 1羽				100%											
		有害捕獲			有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%										
			鳥獣被害防止施設		ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%										
				緊急捕獲	イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%											
鳥獣被害防止施設	電気柵(2段) 1地区 1,709m				波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
	緊急捕獲	イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭					100%													
		有害捕獲	有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
鳥獣被害防止施設			電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 399頭 イノシシ(幼) 163頭 サル 26頭 タヌキ 162頭 アナグマ 79頭				100%													
		有害捕獲	箱わな(大) 13基 箱わな(小) 10基		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
鳥獣被害防止施設			ファイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
		鳥獣被害防止施設	電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
緊急捕獲			イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
	有害捕獲		有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
緊急捕獲			イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
	鳥獣被害防止施設		電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
有害捕獲			有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
	鳥獣被害防止施設		ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
鳥獣被害防止施設			電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
		有害捕獲	有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
鳥獣被害防止施設			ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
		鳥獣被害防止施設	電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
緊急捕獲			イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
	有害捕獲		有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
緊急捕獲			イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
	鳥獣被害防止施設		電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
有害捕獲			有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
	鳥獣被害防止施設		ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
鳥獣被害防止施設			電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
		有害捕獲	有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
鳥獣被害防止施設			ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
		鳥獣被害防止施設	電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
緊急捕獲			イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
	有害捕獲		有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
緊急捕獲			イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
	鳥獣被害防止施設		電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
有害捕獲			有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
	鳥獣被害防止施設		ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
鳥獣被害防止施設			電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
		有害捕獲	有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
鳥獣被害防止施設			ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
		鳥獣被害防止施設	電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
緊急捕獲			イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
	有害捕獲		有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
緊急捕獲			イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
	鳥獣被害防止施設		電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
有害捕獲			有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣被害防止対策協議会			100%												
	鳥獣被害防止施設		ワイヤーメッシュ柵 1地区 678m		上西地区鳥獣被害防止権利		R4	100%												
		緊急捕獲	イノシシ 340頭 イノシシ(幼) 103頭 サル 14頭 タヌキ 301頭 アナグマ 101頭				100%													
鳥獣被害防止施設			電気柵(2段) 1地区 1,709m		波見下地区鳥獣被害防止柵利用組合		R5	100%												
	緊急捕獲		イノシシ 648頭 イノシシ(幼) 123頭 サル 33頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 349頭 アナグマ 98頭				100%													
		有害捕獲	有害捕獲活動 6人		肝付町鳥獣															

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)				
大和村鳥獣被害防止対策協議会 (大和村)	大和村全域	R3	イノシシ カラス アマミノクロウサギ	有害捕獲	ヒナガサ 2基	大和村鳥獣被害防止対策協議会	R3	100%	整備事業において、被害及び目撃情報が多い地区に計画的侵入防止柵を設置した。設置した地区においては、被害情報がなく侵入防止柵の効果がみられている。 推進事業において、害獣撃退器の導入やくくり罠を活用した捕獲研修を実施し、被害軽減を図った。また、令和4年度、5年度においては、カラス捕獲器の整備を行い、被害軽減に努めた。 国の天然記念物であるアマミノクロウサギの被害とクマノミが増加傾向にあり、侵入防止に対する取組が早急に必要である。	イノシシ 3,252 カラス 873 アミノクロウサギ 2,011 合計 6,136	イノシシ 5,516 カラス 1,920 アミノクロウサギ 7,279 合計 14,715	イノシシ Δ62% カラス Δ179% アミノクロウサギ Δ511% 合計 Δ226%	イノシシ 4.0 カラス 0.8 アミノクロウサギ 2.0 合計 6.8	イノシシ 5.8 カラス 1.6 アミノクロウサギ 6.7 合計 14.1	イノシシ Δ10% カラス Δ111% アミノクロウサギ Δ464% 合計 Δ156%	侵入防止柵を設置した地区においては、今後被害の減少に繋がるものと思われる。しかし、柵の設置してない地区においては、被害発生が懸念され、今後も継続的な事業実施が望まれる。 今後も計画的な柵の整備と、徹底した侵入防止柵の維持管理が必要であると考えられる。 また、アマミノクロウサギに対する侵入防止実証などを基に関係機関と情報共有を行い、早急な対策が必要である。被害軽減に向けて農家への指導啓発も必要であると考え、ともに捕獲したイノシシをジビエとして新たな地域特産品としての活用も検討すべきである。	(一財)鹿児島県環境技術協会環境調査部環境生物課調査員 稲留 隆尉氏	アマミノクロウサギによる被害が増加しており、対策が急がれる。捕獲による対策が行えないため、侵入防止柵による対策が主となるが、アマミノクロウサギ、イノシシの両方に対応している柵の導入が進められており、今後対策の効果が期待される。村内にアマミノクロウサギの研究飼育施設ができることから、施設の協力を得ながら農地を守る効果的な方法の開発が望まれる。 捕獲個体(イノシシ)の有効活用は、村内での捕獲実績では大規模施設では採算が合わない。小規模施設を導入している市町村を参考にしたり、隣接する市町村との合同運用を検討する等、慎重な判断が必要である。	・事業の取組状況は、推進事業・整備事業で導入した機械・施設とも稼働率は高く活用されている。 ・被害防止計画の目標に対する達成状況は、被害金額、面積とも目標を達成していない。特に天然記念物であるアマミノクロウサギに対する目標が達成できていないが、鳥獣被害アドバイザーを活用し、新たな侵入防止柵の普及促進と事業実施主体と対策を進めていく必要がある。
				鳥獣被害防止施設	金網柵 2地区 1,880m	思勝侵入防止管理組合 大金久侵入防止管理組合		100%											
				緊急捕獲	イノシシ 42頭 イノシシ(幼) 19頭	-		100%											
		有害捕獲 被害防除 推進体制の整備	アミノクロウサギ 1基 ヒナガサ 1基 協議会開催 被害状況調査	大和村鳥獣被害防止対策協議会	100%														
		鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 2,200m	福元侵入防止管理組合	100%														
		緊急捕獲	イノシシ 60頭 イノシシ(幼) 31頭	-	100%														
		有害捕獲 被害防除	アミノクロウサギ 1基 くくりわな 2基 被害状況調査	大和村鳥獣被害防止対策協議会	100%														
		鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 3,700m	大和浜侵入防止管理組合	100%														
		緊急捕獲	イノシシ 97頭 イノシシ(幼) 7頭	-	100%														
宇株村鳥獣被害防止対策協議会 (宇株村)	宇株村全域	R3	イノシシ カラス	有害捕獲	箱わな(大) 14基 カラス捕獲器 1基	宇株村鳥獣被害防止対策協議会	R3	100%	整備事業や箱わな等の導入により捕獲頭数は増加傾向であるが被害は増加している。	イノシシ 1,556 カラス 130 合計 1,687	イノシシ 2,932 カラス 260 合計 3,192	イノシシ Δ106% カラス Δ132% 合計 Δ108%	イノシシ 2.3 カラス 0.1 合計 2.4	イノシシ 2.7 カラス 0.1 合計 2.8	イノシシ 60% カラス Δ33% 合計 58%	被害額の9割をイノシシが占めており、イノシシへの対策が最も重要となっている。被害報告のある集落は、その後整備事業や村単独予算による侵入防止柵で被害軽減効果が見られており、引き続き柵の整備の推進が望まれる。捕獲数は100〜150頭で推移している。高齢化等で捕獲力の増加込みない状況の場合、ICT機器を導入して巡回作業効率を向上させ、作業を効率化したり、被害発生地域を整理してそれらの地域に捕獲努力を集中させるといった工夫が求められる。 アマミノクロウサギによる被害は、村単独予算で対応できていたが、今後被害が増加する可能性がある。そのため、既に被害防止計画の対象鳥獣として入れている市町村の対策手法を参考にし、今後に備えておくことが望ましい。	・事業の取組状況は、推進事業・整備事業で導入した機械・施設とも稼働率は高く活用されている。 ・被害防止計画の目標に対する達成状況は、被害面積、被害金額共に達成していない。被害防止柵が無い場合に、鳥獣イノシシが集中し、面積IC機器を導入して巡回作業効率を向上させ、作業を効率化したり、被害発生地域を整理してそれらの地域に捕獲努力を集中させるといった工夫が求められる。 アマミノクロウサギによる被害は、村単独予算で対応できていたが、今後被害が増加する可能性がある。そのため、既に被害防止計画の対象鳥獣として入れている市町村の対策手法を参考にし、今後に備えておくことが望ましい。		
				鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 1129.9m	宇株村		100%											
				緊急捕獲	イノシシ 65頭 イノシシ(幼) 32頭	-		100%											
		有害捕獲 被害防除 推進体制の整備	センサーカメラ 8個 カラス捕獲器 1基	宇株村鳥獣被害防止対策協議会	100%														
		鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 479m	宇株村	100%														
		緊急捕獲	イノシシ 113頭 イノシシ(幼) 32頭	-	100%														
		有害捕獲 被害防除	止め刺し用具 一式 研修	宇株村鳥獣被害防止対策協議会	100%														
		緊急捕獲	イノシシ 92頭 イノシシ(幼) 24頭	-	100%														
		瀬戸内町有害鳥獣対策協議会 (瀬戸内町)	瀬戸内町全域	R3	イノシシ カラス アマミノクロウサギ	有害捕獲 被害防除 推進体制の整備	電気止刺し器1基 カラス捕獲活動費 事務用品	瀬戸内町有害鳥獣対策協議会										R3	100%
鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 4,000m					瀬戸内町	100%												
緊急捕獲	イノシシ 292頭 イノシシ(幼) 29頭 カラス 163羽					-	100%												
有害捕獲 生息環境管理 被害防除 推進体制の整備	センサーカメラ 3基 放尿機 1機 雑草の伐採 被害状況調査 協議会の開催 事務用品			瀬戸内町有害鳥獣対策協議会	100%														
鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 7,700m			瀬戸内町	100%														
緊急捕獲	イノシシ 512頭 イノシシ(幼) 1頭 カラス 273羽			-	100%														
有害捕獲 生息環境管理 被害防除 推進体制の整備	鳥獣被害調査 刈払機リース料 協議会の開催 先遣地研修費 事務用品			瀬戸内町有害鳥獣対策協議会	100%														
鳥獣被害防止施設	金網柵 1地区 6,640m			瀬戸内町	100%														
緊急捕獲	イノシシ 319頭 イノシシ(幼) 1頭 カラス 426羽			-	100%														
龍郷町有害鳥獣捕獲協議会 (龍郷町)	龍郷町全域	R3	イノシシ カラス	有害捕獲	くくりわな 42基 監視カメラ 1基 止め刺し機 1基	龍郷町有害鳥獣捕獲協議会	R3	100%	有害鳥獣捕獲対策として町民会への駆除依頼による被害防止を図り、被害発生地域への侵入防止柵及び箱わなの導入を行うことにより、農作物への被害減少に繋がった。	イノシシ 882	イノシシ 269	イノシシ 262%	イノシシ 1.1	イノシシ 0.3	イノシシ 265%	整備事業については、導入後の被害防止効果が顕著に現れており、被害額等は減少傾向にあると思われるが、侵入防止柵のない地区での被害は依然として発生している。緊急捕獲事業での捕獲による報告では、箱わなと猟銃で駆除を行っており、被害防止計画の令和5年度目標値と比較して被害金額及び被害面積の軽減に寄与している。	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 隆尉氏	町内での被害はイノシシのみであり、イノシシによる被害を抑えることが被害の減少に直結する。整備事業を活用した侵入防止柵や町単独予算を使った柵の整備で効果が得られており、目標を大きく達成できている。病害イノシシが増加していることで、捕獲従事者の捕獲意欲が低下することが懸念されるが、報奨金を増加して対応されていた。今年度は、病害イノシシが発生しているため、捕獲隊の民間隊員を増やしたり、推進事業を活用して捕獲従事者を雇用することで捕獲努力量が維持されることを期待したい。など対応していく必要がある。	
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 1,698m	南部地区イノシシ被害防止柵管理組合		100%											
				緊急捕獲	イノシシ 38頭	-		100%											
		有害捕獲 推進体制の整備	止め刺し機 1機 事務用品	龍郷町有害鳥獣捕獲協議会	100%														
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 1,316m	北部地区イノシシ被害防止柵管理組合	100%														
		緊急捕獲	イノシシ 143頭	-	100%														
		有害捕獲	アニマルセンサー 2基	龍郷町有害鳥獣捕獲協議会	100%														
		鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 1地区 1,960m	南部地区イノシシ被害防止柵管理組合	100%														
		緊急捕獲	イノシシ 99頭	-	100%														

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の詳細	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)			
和泊町有害鳥獣捕獲対策協議会 (和泊町)	和泊町全域	R3	イノシシ	有害捕獲	カラス捕獲機 1基 追い払いセンサーカメラ 1基	和泊町有害鳥獣捕獲対策協議会	R3	100%	町内においてカラス、キジによるバレイショ、サトイモ及び飼料作物の被害が発生していたため。令和3年度、令和4年度にカラス捕獲機を導入し農作物被害の軽減を図るとともに、町猟友会(銃猟者)と連携したカラス・キジの捕獲及び追い払いを実施。被害防止計画策定前の令和2年度においてはカラス213羽、キジ8羽の合計221羽に対し、計画期間最終年度の令和5年度においてはカラス288羽、キジ5羽の合計293羽となり、捕獲羽数は33%増加した。	カラス 48 キジ 106 合計 154	カラス 71 キジ 8 合計 79	カラス Δ10% キジ 313% 合計 210%	カラス 0.1 キジ 0.1 合計 0.2	カラス 0.1 キジ 0.0 合計 0.1	カラス 50% キジ 325% 合計 200%	カラス捕獲機の設置に伴い、捕獲数の増加が認められた一方、カラス及びキジの生息数、目撃数の増加による被害面積及び被害額がやや増加している状況である。	(一財)鹿児島環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 隆樹氏	・事業の取組状況については、推進事業でカラス捕獲機を導入するなどして、利用率も高い。 ・事業実施主体も、事業を取り入れたことで、捕獲効果の増加も認められるが、依然としてカラスの被害額や面積が増加しているのが懸念事項である。
				緊急捕獲	カラス35羽					-	100%	イノシシによるさとうきび畑の被害が元年度は143千円あったが、推進事業と緊急捕獲活動支援事業を活用した捕獲機の設置、猟友会の有害捕獲を実施した結果20千円ほど減少した。また令和元年度の捕獲数39頭から令和5年度には1頭と捕獲数も減少しており、被害報告数も減ったため生息数も減少していると思われる。 ・カラス、キジについてはともに令和元年より10千円以上被害が拡大しているが、緊急捕獲活動支援事業を活用してカラス捕獲を実施した結果、捕獲数は令和4年度494羽だったのに対し、令和5年度は635羽捕獲している。	イノシシ 100 カラス 71 キジ 32 合計 203	イノシシ 120 カラス 124 キジ 56 合計 300	イノシシ 53% カラス Δ71% キジ Δ85% 合計 Δ11%	イノシシ 0.1 カラス 0.1 キジ 0.0 合計 0.1	イノシシ 0.1 カラス 0.2 キジ 0.0 合計 0.3	イノシシ 0% カラス Δ500% キジ Δ100% 合計 Δ183%
		R4	有害捕獲	イノシシ捕獲機 3基	和泊町有害鳥獣捕獲対策協議会	R4	100%	イノシシによるさとうきび畑の被害が元年度は143千円あったが、推進事業と緊急捕獲活動支援事業を活用した捕獲機の設置、猟友会の有害捕獲を実施した結果20千円ほど減少した。また令和元年度の捕獲数39頭から令和5年度には1頭と捕獲数も減少しており、被害報告数も減ったため生息数も減少していると思われる。 ・カラス、キジについてはともに令和元年より10千円以上被害が拡大しているが、緊急捕獲活動支援事業を活用してカラス捕獲を実施した結果、捕獲数は令和4年度494羽だったのに対し、令和5年度は635羽捕獲している。	イノシシ 100 カラス 71 キジ 32 合計 203	イノシシ 120 カラス 124 キジ 56 合計 300	イノシシ 53% カラス Δ71% キジ Δ85% 合計 Δ11%		イノシシ 0.1 カラス 0.1 キジ 0.0 合計 0.1	イノシシ 0.1 カラス 0.2 キジ 0.0 合計 0.3	イノシシ 0% カラス Δ500% キジ Δ100% 合計 Δ183%	イノシシによる被害が最も大きい、これまでの捕獲活動によって生息数は減少していると考えられる。一方、生存個体は警戒心が強く、箱罠での捕獲は難しいと考えられる。そのため、くくり罠による捕獲を推進するとともに、被害発生農地付近ではセンサーカメラを設置し、撮影情報を捕獲従事者と共有することで捕獲作業の効率化を図ると良い。 カラスは継続的な捕獲によって被害が抑えられつつある。農作物が餌となることを防ぐと同時に家畜の飼料や生活ゴミが餌として供給されないよう関係部署の協力が重要である。キジによる被害対策は、捕獲が中心となっている。そのため、目撃情報を捕獲従事者に提供するとともに、被害発生地周辺で捕獲することが効果的である。	(一財)鹿児島環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 隆樹氏	・事業の取組状況は、推進事業でカラス捕獲機やイノシシ捕獲機を取り入れており、利用率が高く、カラスの捕獲率も高くなっている。 ・被害防止計画の目標と達成状況は、イノシシ、カラス、キジともに達成しているため、引き続き、目撃情報を共有や被害発生地周辺での捕獲強化を行う必要がある。
R5	有害捕獲 被害防除	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 追い払い 5回 捕獲機管理 周年 鳥獣対策研修会 3人	和泊町有害鳥獣捕獲対策協議会	R5	100%	事業の取組により、令和5年度に新たに6人が狩猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲隊員の確保につながっている。捕獲活動については、捕獲報奨金の支給により、捕獲活動を活発的に行うことができているほか、箱罠の整備により、特にイノシシの有害捕獲頭数が増え、令和5年度の平成30年度と比較して約210%増加。(平成30年度有害捕獲頭数204頭、令和5年度有害捕獲頭数550頭)	イノシシ 718 ノウサギ 134 タヌキ - カラス 1,114 ヒヨドリ 1,482 サル 60 アナグマ 4,421 シカ 261 キジ 266 合計 8,456	イノシシ 1,032 ノウサギ 523 タヌキ 555 カラス 2,124 ヒヨドリ 118 サル 115% アナグマ 1,716 シカ 259 キジ - 合計 6,327	イノシシ Δ2% ノウサギ 331% タヌキ 皆増 カラス 217% ヒヨドリ Δ1% サル 115% アナグマ 243% シカ 102% キジ 331% 合計 159%	イノシシ 0.4 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.0 カラス 0.2 ヒヨドリ 0.3 サル 0.0 アナグマ 0.8 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	イノシシ 0.6 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.2 カラス 0.1 ヒヨドリ 0.5 サル 0.0 アナグマ 0.4 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9		イノシシ 16% ノウサギ 300% タヌキ 皆増 カラス 200% ヒヨドリ Δ92% サル Δ100% アナグマ 203% シカ 200% キジ 300% 合計 94%	関係機関と連携し、生産者や地域住民に対して鳥獣被害防止対策研修会を開催するなど鳥獣被害対策についでいる。引き続き研修会を行うことで行政主体ではなく、住民が主体となった鳥獣害に強い集落づくりを進めていく必要がある。 被害金額、面積ともに、目標を達成していることから、捕獲体制の整備が進むような施策を実施できればいいのではと感じました。また、アナグマの被害がかなり減少しているため、その要因を検証することで他の獣種に対しての被害対策にも生かせるのではと感じました。	合同会社南九州野生動物保護管理センター 代表社員 浅井 隆之氏	前年度目標未達による評価2年目である。被害金額、被害面積とも達成できた。被害は、イノシシ、ヒヨドリで全体の5割前後を占めている。今後は、目標達成に向けて、第三者の意見を参考し、他地区の優良事例等を収集・解析して市の被害防止対策に活用することが重要である。		
西郷盛 指宿市鳥獣被害防止対策協議会	指宿市全域	R2	イノシシ	有害捕獲 被害防除	免許取得事前講習会受講料補助 3人 協議会費	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	R2	100%	事業の取組により、令和5年度に新たに6人が狩猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲隊員の確保につながっている。捕獲活動については、捕獲報奨金の支給により、捕獲活動を活発的に行うことができているほか、箱罠の整備により、特にイノシシの有害捕獲頭数が増え、令和5年度の平成30年度と比較して約210%増加。(平成30年度有害捕獲頭数204頭、令和5年度有害捕獲頭数550頭)	イノシシ 718 ノウサギ 134 タヌキ - カラス 1,114 ヒヨドリ 1,482 サル 60 アナグマ 4,421 シカ 261 キジ 266 合計 8,456	イノシシ 1,032 ノウサギ 523 タヌキ 555 カラス 2,124 ヒヨドリ 118 サル 115% アナグマ 1,716 シカ 259 キジ - 合計 6,327	イノシシ Δ2% ノウサギ 331% タヌキ 皆増 カラス 217% ヒヨドリ Δ1% サル 115% アナグマ 243% シカ 102% キジ 331% 合計 159%	イノシシ 0.4 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.0 カラス 0.2 ヒヨドリ 0.3 サル 0.0 アナグマ 0.8 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	イノシシ 0.6 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.2 カラス 0.1 ヒヨドリ 0.5 サル 0.0 アナグマ 0.4 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	関係機関と連携し、生産者や地域住民に対して鳥獣被害防止対策研修会を開催するなど鳥獣被害対策についでいる。引き続き研修会を行うことで行政主体ではなく、住民が主体となった鳥獣害に強い集落づくりを進めていく必要がある。 被害金額、面積ともに、目標を達成していることから、捕獲体制の整備が進むような施策を実施できればいいのではと感じました。また、アナグマの被害がかなり減少しているため、その要因を検証することで他の獣種に対しての被害対策にも生かせるのではと感じました。	合同会社南九州野生動物保護管理センター 代表社員 浅井 隆之氏	前年度目標未達による評価2年目である。被害金額、被害面積とも達成できた。被害は、イノシシ、ヒヨドリで全体の5割前後を占めている。今後は、目標達成に向けて、第三者の意見を参考し、他地区の優良事例等を収集・解析して市の被害防止対策に活用することが重要である。	
				緊急捕獲	イノシシ(幼) 338頭 イノシシ 44頭 シカ 31頭 アナグマ 225頭 タヌキ 71頭 カラス 440羽 ヒヨドリ 1,675羽					-	100%	事業の取組により、令和5年度に新たに6人が狩猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲隊員の確保につながっている。捕獲活動については、捕獲報奨金の支給により、捕獲活動を活発的に行うことができているほか、箱罠の整備により、特にイノシシの有害捕獲頭数が増え、令和5年度の平成30年度と比較して約210%増加。(平成30年度有害捕獲頭数204頭、令和5年度有害捕獲頭数550頭)	イノシシ 718 ノウサギ 134 タヌキ - カラス 1,114 ヒヨドリ 1,482 サル 60 アナグマ 4,421 シカ 261 キジ 266 合計 8,456	イノシシ 1,032 ノウサギ 523 タヌキ 555 カラス 2,124 ヒヨドリ 118 サル 115% アナグマ 1,716 シカ 259 キジ - 合計 6,327	イノシシ Δ2% ノウサギ 331% タヌキ 皆増 カラス 217% ヒヨドリ Δ1% サル 115% アナグマ 243% シカ 102% キジ 331% 合計 159%	イノシシ 0.4 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.0 カラス 0.2 ヒヨドリ 0.3 サル 0.0 アナグマ 0.8 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	イノシシ 0.6 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.2 カラス 0.1 ヒヨドリ 0.5 サル 0.0 アナグマ 0.4 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	関係機関と連携し、生産者や地域住民に対して鳥獣被害防止対策研修会を開催するなど鳥獣被害対策についでいる。引き続き研修会を行うことで行政主体ではなく、住民が主体となった鳥獣害に強い集落づくりを進めていく必要がある。 被害金額、面積ともに、目標を達成していることから、捕獲体制の整備が進むような施策を実施できればいいのではと感じました。また、アナグマの被害がかなり減少しているため、その要因を検証することで他の獣種に対しての被害対策にも生かせるのではと感じました。
		R3	有害捕獲 被害防除	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 7人 協議会費	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	R3	100%	事業の取組により、令和5年度に新たに6人が狩猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲隊員の確保につながっている。捕獲活動については、捕獲報奨金の支給により、捕獲活動を活発的に行うことができているほか、箱罠の整備により、特にイノシシの有害捕獲頭数が増え、令和5年度の平成30年度と比較して約210%増加。(平成30年度有害捕獲頭数204頭、令和5年度有害捕獲頭数550頭)	イノシシ 718 ノウサギ 134 タヌキ - カラス 1,114 ヒヨドリ 1,482 サル 60 アナグマ 4,421 シカ 261 キジ 266 合計 8,456	イノシシ 1,032 ノウサギ 523 タヌキ 555 カラス 2,124 ヒヨドリ 118 サル 115% アナグマ 1,716 シカ 259 キジ - 合計 6,327	イノシシ Δ2% ノウサギ 331% タヌキ 皆増 カラス 217% ヒヨドリ Δ1% サル 115% アナグマ 243% シカ 102% キジ 331% 合計 159%	イノシシ 0.4 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.0 カラス 0.2 ヒヨドリ 0.3 サル 0.0 アナグマ 0.8 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	イノシシ 0.6 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.2 カラス 0.1 ヒヨドリ 0.5 サル 0.0 アナグマ 0.4 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	関係機関と連携し、生産者や地域住民に対して鳥獣被害防止対策研修会を開催するなど鳥獣被害対策についでいる。引き続き研修会を行うことで行政主体ではなく、住民が主体となった鳥獣害に強い集落づくりを進めていく必要がある。 被害金額、面積ともに、目標を達成していることから、捕獲体制の整備が進むような施策を実施できればいいのではと感じました。また、アナグマの被害がかなり減少しているため、その要因を検証することで他の獣種に対しての被害対策にも生かせるのではと感じました。	合同会社南九州野生動物保護管理センター 代表社員 浅井 隆之氏	前年度目標未達による評価2年目である。被害金額、被害面積とも達成できた。被害は、イノシシ、ヒヨドリで全体の5割前後を占めている。今後は、目標達成に向けて、第三者の意見を参考し、他地区の優良事例等を収集・解析して市の被害防止対策に活用することが重要である。		
R4	有害捕獲 被害防除	ICT等新技術の活用 協議会費	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	R4	100%	事業の取組により、令和5年度に新たに6人が狩猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲隊員の確保につながっている。捕獲活動については、捕獲報奨金の支給により、捕獲活動を活発的に行うことができているほか、箱罠の整備により、特にイノシシの有害捕獲頭数が増え、令和5年度の平成30年度と比較して約210%増加。(平成30年度有害捕獲頭数204頭、令和5年度有害捕獲頭数550頭)	イノシシ 718 ノウサギ 134 タヌキ - カラス 1,114 ヒヨドリ 1,482 サル 60 アナグマ 4,421 シカ 261 キジ 266 合計 8,456	イノシシ 1,032 ノウサギ 523 タヌキ 555 カラス 2,124 ヒヨドリ 118 サル 115% アナグマ 1,716 シカ 259 キジ - 合計 6,327	イノシシ Δ2% ノウサギ 331% タヌキ 皆増 カラス 217% ヒヨドリ Δ1% サル 115% アナグマ 243% シカ 102% キジ 331% 合計 159%	イノシシ 0.4 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.0 カラス 0.2 ヒヨドリ 0.3 サル 0.0 アナグマ 0.8 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	イノシシ 0.6 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.2 カラス 0.1 ヒヨドリ 0.5 サル 0.0 アナグマ 0.4 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	関係機関と連携し、生産者や地域住民に対して鳥獣被害防止対策研修会を開催するなど鳥獣被害対策についでいる。引き続き研修会を行うことで行政主体ではなく、住民が主体となった鳥獣害に強い集落づくりを進めていく必要がある。 被害金額、面積ともに、目標を達成していることから、捕獲体制の整備が進むような施策を実施できればいいのではと感じました。また、アナグマの被害がかなり減少しているため、その要因を検証することで他の獣種に対しての被害対策にも生かせるのではと感じました。	合同会社南九州野生動物保護管理センター 代表社員 浅井 隆之氏	前年度目標未達による評価2年目である。被害金額、被害面積とも達成できた。被害は、イノシシ、ヒヨドリで全体の5割前後を占めている。今後は、目標達成に向けて、第三者の意見を参考し、他地区の優良事例等を収集・解析して市の被害防止対策に活用することが重要である。				
R5	緊急捕獲	イノシシ 405頭 (捕獲頭数にの増加に於いた加算 うち77頭) イノシシ(幼) 22頭 シカ 49頭 アナグマ 166頭 タヌキ 66頭 カラス 183羽 ヒヨドリ 112羽	-	100%	事業の取組により、令和5年度に新たに6人が狩猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲隊員の確保につながっている。捕獲活動については、捕獲報奨金の支給により、捕獲活動を活発的に行うことができているほか、箱罠の整備により、特にイノシシの有害捕獲頭数が増え、令和5年度の平成30年度と比較して約210%増加。(平成30年度有害捕獲頭数204頭、令和5年度有害捕獲頭数550頭)	イノシシ 718 ノウサギ 134 タヌキ - カラス 1,114 ヒヨドリ 1,482 サル 60 アナグマ 4,421 シカ 261 キジ 266 合計 8,456	イノシシ 1,032 ノウサギ 523 タヌキ 555 カラス 2,124 ヒヨドリ 118 サル 115% アナグマ 1,716 シカ 259 キジ - 合計 6,327	イノシシ Δ2% ノウサギ 331% タヌキ 皆増 カラス 217% ヒヨドリ Δ1% サル 115% アナグマ 243% シカ 102% キジ 331% 合計 159%	イノシシ 0.4 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.0 カラス 0.2 ヒヨドリ 0.3 サル 0.0 アナグマ 0.8 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	イノシシ 0.6 ノウサギ 0.0 タヌキ 0.2 カラス 0.1 ヒヨドリ 0.5 サル 0.0 アナグマ 0.4 シカ 0.1 キジ - 合計 1.9	関係機関と連携し、生産者や地域住民に対して鳥獣被害防止対策研修会を開催するなど鳥獣被害対策についでいる。引き続き研修会を行うことで行政主体ではなく、住民が主体となった鳥獣害に強い集落づくりを進めていく必要がある。 被害金額、面積ともに、目標を達成していることから、捕獲体制の整備が進むような施策を実施できればいいのではと感じました。また、アナグマの被害がかなり減少しているため、その要因を検証することで他の獣種に対しての被害対策にも生かせるのではと感じました。	合同会社南九州野生動物保護管理センター 代表社員 浅井 隆之氏	前年度目標未達による評価2年目である。被害金額、被害面積とも達成できた。被害は、イノシシ、ヒヨドリで全体の5割前後を占めている。今後は、目標達成に向けて、第三者の意見を参考し、他地区の優良事例等を収集・解析して市の被害防止対策に活用することが重要である。					

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の詳細	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値(千円)	実績値(千円)	達成率(%)	目標値(ha)	実績値(ha)	達成率(%)				
西野産 始良市鳥獣被害防止対策協議会	始良市全域	R2	イノシシ シカ アナグマ タヌキ ノコギリ ヒヨドリ カラス スズメ	鳥獣被害防止施設	電気柵(4段) 1地区 17,520m	組合	R2	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
				緊急捕獲	イノシシ 426頭 イノシシ(幼) 128頭 シカ 670頭 サル 50頭 アナグマ 9頭			100%											
西野産 始良市鳥獣被害防止対策協議会	始良市全域	R3	イノシシ シカ アナグマ タヌキ ノコギリ ヒヨドリ カラス スズメ	有害捕獲 被害防除 生息環境管理	箱わな(中) 1基 ICT付き箱わな 1基 放任果樹伐採	始良市鳥獣被害防止対策協議会	R3	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
				鳥獣被害防止施設	電気柵(4段) 1地区 19,360m 電気柵(4段) 1地区 20,360m			100%											
				緊急捕獲	イノシシ 409頭 (捕獲頭数にの増加に応じた加算 うち58頭) イノシシ(幼) 101頭 シカ 1,039頭 (捕獲頭数にの増加に応じた加算 うち507頭) シカ(成) 7頭 サル(成) 27頭 アナグマ 9頭 タヌキ 1頭 カラス 5羽			100%											
		有害捕獲 生息環境管理		箱わな(中) 3基 放任果樹伐採	下名鶴田地区電気柵管理組合	R4	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		鳥獣被害防止施設		電気柵(2段) 1地区 9,348m			100%												
		緊急捕獲		イノシシ 483頭 イノシシ(ジビエ) 12頭 イノシシ(幼) 102頭 シカ 911頭 シカ(ジビエ) 16頭 シカ(幼) 3頭 サル(成) 15頭 アナグマ 6頭 カラス 3羽			100%												
西野産 東車良町鳥獣被害対策協議会	東車良町全域	R2	イノシシ サル アナグマ タヌキ	有害捕獲 被害防除	箱わな(大) 6基 箱わな(中) 9基 自動撮影カメラ 6台 電気止めさし器 1式 研修会の開催	東車良町鳥獣被害対策協議会	R2	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
				緊急捕獲	イノシシ 11頭 アナグマ 2頭 タヌキ 12頭			100%											
		R3		有害捕獲 被害防除	狩猟免許事前講習会受講料助成 2人 自動撮影カメラ 4台 追い払い用トランシーバー 5台 先遣地研修	東車良町鳥獣被害対策協議会	R3	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				緊急捕獲	イノシシ 2頭 イノシシ(幼) 2頭 アナグマ 1頭 タヌキ 8頭			100%											
		R4		有害捕獲 被害防除	箱わな(大) 6基 くくり籠 20基 わな用受信機 3機 わな用発信機 10機 先遣地研修	東車良町鳥獣被害対策協議会	R4	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				緊急捕獲	イノシシ 19頭 イノシシ(幼) 1頭 タヌキ 9頭			100%											
鹿児鳥獣	鹿児鳥獣	R5	-	実施体制整備	鳥獣被害対策に係るアドバイザーの派遣 27回	県	R5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
				人材育成活動	集落ぐるみの研修会 2集落で各4回 指導者育成研修会 2回 狩猟免許取得者の技術向上支援 わな猟初心者技術研修会 12回 わな猟実地指導 15回														
				ジビエ利用拡大	ジビエ活用研修会(日置市) 1回														
				広域捕獲活動	広域捕獲活動(複数市町村による一斉捕獲の推進) 4地域で実施(南薩・始良・伊佐・大隅・熊毛) 県の広域活動の実施(生息状況調査)														

注1：被害金額及び被害面積の目標値については対象鳥獣及び目標種を記し、これに合わせて個体の数も記載する。
注2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止推進活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
注3：事業効果は当該種を考慮し、被害軽減に事業実施と被害軽減との因果関係が認められるよう詳細を明記すること。その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上などのように明示し、かつ必ず記載すること。
注4：「事業実施主体の評価」の項には、その効果に対する考察や被害状況も詳細に記載すること。
注5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止施設設置後の当該地域の鳥獣被害の状況、侵入防止施設の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止種の種類・設置箇所、事業費、調査費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対策、設置に係る指導方針、維持管理方針、維持管理状況、都道府県における鳥獣被害状況等について、具体的に記述し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価
野生鳥獣による農作物の令和5年度の被害額は、イノシシの被害が増加したものの、シカやヒヨドリによる被害が減少したため、約32.3百万円減少し、約2.98億円(対前年度比90%)となった。これまで県が進めてきた①研修会等を通じた集落ぐるみの取組やその指導者の育成、②鳥獣被害対策アドバイザーの派遣のほか、③農家等の自発的な取組の推進、④侵入防止柵の整備やICT等を活用した捕獲機材の整備、捕獲活動経費などの支援、⑤県が主導して実施する広域捕獲活動等(R5年度：生息状況調査、R6年度：広域捕獲)の取組をより強化し、今後も市町村等と連携し「寄せ付けない」、「侵入を防止する」、「個体数を減らす」の3つの取組を総合的かつ一体的に推進し、野生鳥獣による農作物被害の軽減に取り組む必要がある。